

令和5年度 第3回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日時：令和5年7月26日（水）13:00～17:00

場所：金沢市役所第二本庁舎 2202会議室

1. 事務連絡

（事務局） 時間より少し早いのですが、全員お集まりなので、本日も始めさせていただきます。委員の皆さん、本日もお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、第3回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催いたします。机上には、昨日と同様の資料を配付させていただいております。ご確認ください。

本日、1種目目に予定しております国語につきましては、調査委員長が欠席となりましたので、本日は調査委員に説明していただきます。よろしくお願ひします。

それでは、この後の議事進行を選定委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

2. 説明・審議

＜調査委員入室＞

①国語

（選定委員長） 皆さん、こんにちは。昨日は7種目の審議、ありがとうございました。今日は国語から順に6種目になりますので、今日もよろしくお願ひいたします。では早速、説明に入りたいと思いますので、国語の調査委員、お願ひいたします。

（国語調査委員） ただ今より、国語科の教科書の調査結果について報告いたします。国語科につきましては3者の発行者について調査いたしました。それぞれの特色を簡単に説明いたします。

初めに、東京書籍です。東京書籍の特徴の一つは、調査研究項目の5にあります、現代的な諸課題について積極的に取り上げていることです。6年生152ページをご覧ください。この単元では、プラスチックごみの問題について複数の情報を関係付けながら文章を読み、自分事として解決方法を考えることができるよう設定されています。見開きの大きな写真により、課題解決への意欲が一層増すことと思われます。

東京書籍のもう一つの特徴として、調査研究項目1に関連して、単元で付けたい力が明確に示されているという点です。こちらも引き続き6年生152ページをご覧ください。単元の初めに付けたい力を「言葉の力」として示し、単元の最後に、こちらは166ページになります。166ページにあるとおり再度「言葉の力」を示し、付けた力を文章だけでなくキーワードとなる言葉や図を使い、分かりやすく示してしています。

続いて、教育出版についてです。教育出版の特徴は、調査研究項目3にあるように、児童の興味・関心が高まるような学習が多く設定されていることです。1年生の下巻51ページをご覧ください。51ページには吹き出しのある写真を提示することで、1年生の児童が場面を想像したり、気持ちを想像したりして、自ら言葉を広げようとすると思われます。また次の52ページに「おはなしをかんがえてかく」というものがありますが、1年生にとってやや難しきを伴う学習ではありますが、このように最初の吹き出しを入れることで、お話を作りたいという児童の興味・関心を引き出すことができると考えます。

教育出版のもう一つの特徴として、調査研究項目4にある、伝統的な言語文化を児童が身近に感じられるよう工夫されている点が挙げられます。4年生の下巻68ページをご覧ください。故事成語は児童にとってあまりなじみがないかもしれませんのが、70ページからあるようにイラストを用いて成り立ちを示すことで児童が親しみを持てるよう工夫されています。

続いて、光村図書です。光村図書の特徴は、調査研究項目 2 にあるとおり、課題を解決する過程を重視した単元の流れが示されていることです。6 年生の 10、11 ページをご覧ください。学習や生活の中で思った問い合わせを持ち、学習したことが次の学習や生活に生きるというサイクルが分かりやすく図で示されています。これらの学習の流れは、金沢型学習スタイルの流れとも合っています。具体的には 6 年生の 38、39 ページをご覧ください。単元の流れが見開きで一目で分かり、見通しを持つ場面では目標だけではなく「問い合わせをもとう」ということがあることで、児童が課題意識を持って学習に取り組むことができるようになります。これは他者ではない視点です。また同じページの「ふりかえろう」では、学習指導要領における三つの目標の観点に沿った振り返りが示され、個々の変容を自覚できるようになっています。こちらも他者には見られない特徴です。

光村図書のもう一つの特徴は、調査研究項目 6 にある学びの系統性についてです。3 年生の上、8 ページをご覧ください。上段にはこれから 3 年生で学ぶこと、下段にはこれまで 2 年生で学んだことが示されています。それらを踏まえ、13 ページでは 3 年生の学習ができるようになりたいことや楽しみな学習を書く欄がございます。また、140 ページをご覧ください。このように巻末には「『たいせつ』のまとめ」として、上巻の学習内容が整理されています。また下の方には、自分が大切だと思ったことをメモする欄も設けてあります。

続いて、3 年生の下巻 140 ページをご覧ください。同じように「『たいせつ』のまとめ」が示され、ここでは上巻も含めて 1 年からの学習内容が整理されています。少し戻りますが、138 ページをご覧ください。「『たいせつ』のまとめ」を使いながら児童が 1 年間を振り返り、また次の学年への学びにつなげていくというふうに構成されています。以上で説明を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さまからの質問等お願いいたします。副委員長。

(選定副委員長) 光村図書の調査研究項目 1 の最後のところで、単元末の「たいせつ」では身に付けたい力を確認したり、巻末でも配慮がされているということでした。教育出版でも、単元末や巻末でも確認して配慮があるということです。ここに質的な違いというのはございますか。

(国語調査委員) 各者、付けたい力というものは載っているのですが、光村図書の大きな違いとしては、3 年生の上巻 13 ページになります。大きく違うところは、こんな力を付けたいということを書くページがあったというところと、同じく 140 ページに、「こんな力を付けてきました」と上段にあるのですが、自分たちで授業中に「こんなものも付きましたよ」というメモが書けるようになっているというところ。140 ページには先ほどの付いた力が掲載されているのですが、同じ下巻の 138 ページの方には「こんな力が付いたよ」というメモ欄の方まで載せてあるというところが、他者には見られない光村図書の顕著なところかなと思われます。

あと、教育出版と光村図書の大きな違いもありますて、まず教育出版の方からいきたいと思います。教育出版の 3 年上の 28、29 ページをご覧ください。特に 29 ページの左側最後の方になります。こちらでは振り返りの観点が 2 観点となっております。ですが、光村図書になりますと、下巻の 28、29 ページをご覧ください。「ふりかえろう」の観点が 3 観点になっております。「知る」「読む」「つなぐ」になっておりまして、こちらが学習指導要領における三つの目標の観点に沿った振り返りということで、他者とは大きく違うかなという点です。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、ご質問いかがでしょうか。どうぞ。

(選定委員) 保護者の立場からなのですが、5 番の現代的な諸課題のところは、3 者とも

SDGs を取り上げているなと思ったときに、子どもたちは割と YouTube とか動画とか、見て学ぶことが多いのですが、読解力という部分で懸念があると感じています。ChatGPT などを教育現場で使っていくとなったときに、ご丁寧にたくさん書いてあるので、ああいう文章をしっかりと読み解く力といいますか、そういう力というのは今後養っていくことが必要かなと思ったときに、この 5 番のところは SDGs 以外の部分では何か記載があったとか、そういう議論は何かなされたのでしょうか。

(選定委員長) 現代的な課題の SDGs の他に、今ですとネットワークであったり、コンピューターが文を生成したりというような、これはごく最近出てきた問題かもしれません、まだ他にあるかというご質問かなと思いますが、いかがでしょう。

(国語調査委員) そうしましたら、東京書籍 6 年生の 91 ページをご覧ください。現代的な諸課題としまして SDGs 以外に、これからインターネットなどに関連する職業に就く子どもたちが多いと思います。そういうものを使った教材が読み物の中に入っているというのが一つあるのと、東京書籍の 1 年上の 8、9 ページをご覧ください。実はこの東京書籍の 8、9 ページをぱっと見ると分かると思うのですが、多様な人物が載っているのがお分かりですか。肌の色が違う子がいるとか、人種の違いについて取り上げているということで議論はいたしました。以上です。

(選定委員長) その辺の評価も入ってくるということでしょうかね。よろしいですか。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) ありがとうございます。他にご質問、いかがでしょうか。

(選定委員) 調査項目 8 についてです。ベーシックカリキュラムとの関連ということで、ここには関連図書に関するそれぞれの特徴が出ているなと思うのですが、それぞれの違いについて少しご説明いただけますとありがたいです。よろしくお願ひします。

(国語調査委員) 金沢市は読書の推進を大切にしているのですが、調査委員会で調べたところ、まず東京書籍ですが、6 年生の 106 ページを見ますと、上橋菜穂子さんという「精霊の守り人」、アニメにも映画にもいろいろとなっておりますが、こういう著名人の読書体験が載っているページが各学年で設けられております。

また教育出版では 6 年の上の 94、95 ページをご覧ください。こちらは「ひろがる読書の世界」というところがあるのですが、コップのようになっておりまして、子どもが夏休みの直前に学習する単元なのですが、こちらを見るといかにもこれは読んでみたいなと思うようなページ作りになった工夫が見られます。

そして、光村図書の 6 年の 266 ページをご覧ください。「物語の世界を作る表現」というところがあります。ここでは、国語で大切な読書を広げ、力を付けることを意識した教材ということで、6 年生は宮澤賢治さんの「やまなし」という教材があるのですが、そこと関連させて、宮澤賢治さんの作品をこの 266、267 ページに取り上げております。同一作者の作品を取り上げることもそうですが、「やまなし」の学習の中で、色を表す表現に着目することも大切と考えております。そうしますと、268 ページになりますが、色を表す表現に着目した作品を載せているところが取り上げられているところに踏み込んでいるのが、光村図書の読書の一つの特徴かなと思います。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にご質問はいかがでしょうか。

(選定委員) 2 点お願ひしたいので、1 点ずつ分けてご質問させてください。

先ほど調査委員からご紹介いただいた、東京書籍のインターネットの文章に関して、そ

れを読み解くという内容が東京書籍のところにありました。これは現代的な諸課題への対応というところでご紹介いただいたのですが、国語の教科が果たす現代的な諸課題の役割として、インターネット等、メディアリテラシーといいますか、そういったところの力を付けていくというところは本当に大事なポイントだと思うので、こういったことが教科書に載って取り上げられているのは非常にいいなと思ったのです。ということで、国語の教科として、現代的な諸課題としてこのテーマがあるのは非常に重要なと思ったところで、ご紹介いただいたのは東京書籍だけなのですが、他の2者についてそういうSDGs以外の、特にインターネット関連の内容について取り上げられている箇所があればご紹介いただきたいのと、またその中でそういった点について、評価としてはどうだったのかというところを補足いただけるとありがたいです。もしよろしければお願ひしたいと思います。

(国語調査委員) それでは、光村図書の6年生の教科書をご覧ください。76ページに「デジタル機器と私たち」というものがあります。先ほどは東京書籍のものでしたが、光村図書でもこれから時代を反映しまして「デジタル機器と私たち」という、これから自分たちの使い方などに対して、80ページを見てもらうとモデル文が出ているかなと思います。自分たちがこういうスマートフォンなど、ネットの検索機器を使ったときに、どういうことが大切なかということを考えながら国語の勉強をしていくという教材群が載っています。

(選定委員) ありがとうございます。もう1点、ちょっと話は変わるので、調査研究項目の4番について、冒頭の説明では東京書籍の故事成語を例にご説明いただいたかなと思うのですけれども、この評価項目の中では光村図書の方も評価が高いのかなと思って聞いておりました。なので、ご紹介いただいたのが東京書籍だけだったので、光村図書はどういった紹介をされているのか補足いただけるとうれしいのですが。

(国語調査委員) 分かりました。それでは、光村図書の6年生の教科書の46ページをご覧ください。これは6年生ですが、他の学年でも季節に応じてというふうにして「季節の言葉」というものを取り上げております。今は6年生のものを見ていますが、二十四節気のことを大きく取り上げています。四季に関わる言葉を多数取り上げているというのが光村図書に見られます。四季を感じて、自分で想像しながら言語文化を学ぶことができるというのがここから感じられます。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

私の方から、どの項目というわけではないのですが、私も職業柄、学校現場に行くことがございますので、この前、校長先生から国語の先生だという紹介を受けて、具体的な話になりますけれども、「スイミーの特徴を書こう」というような課題だったのですけど、そのときに私が言ったのは、国語の見方・考え方として、語の意味や語句と語句との関連から、それはどういう言葉を使うのかというものを、特徴を単に挙げるのではなくて、例えば「スイミー」の見た目、外的な特徴がありますよね。低学年の子どもから見た目の特徴、あと内面の特徴がありますよね。勇気であるとか、気が小さいとか。例えばそのような観点なり特徴も分けて少し書かせたり、そういうことが言葉とか、言葉の意味とか、その関連みたいなものを学習するのにいいのではないかということを言ったのですけれども、あまりぴんと来られなかったのですよね。

もちろん内容的に興味を持つような学習内容を書いたり、あるいはちゃんと力が付いたかどうか振り返りを書こうというのは分かるのですが、根本的に語句の意味が分からなければ書きようがないわけですよね。そういうように、もう少し基本的な言葉とか、言葉の組み立てとか、語句との関連や言葉の意味というような観点が重要なと思うのです。

そういう観点から言えば、その中で秀でている教科書はどういうところなのかなど。私の考え方方が間違っていれば、「国語教育はそうではないですよ」と言わわれれば、特にお答えしていただくなくとも結構ですけれども、もしそういう観点から特徴があれば、挙げ

ていただければと思います。

(国語調査委員) それでは、光村図書の「スイミー」が載っている 2 年上の教科書 160 ~162 ページをご覧ください。161 ページに、「ことばのたからばこ」というものが載っております。こちらは光村図書が以前から載せているところでありまして、子どもたちは普通に楽しいだけとか、語句が広がらないことがあります。そういうのをなくすために、人物を表す言葉、ものの様子を表す言葉、気持ちを表す言葉というふうに、こちらの方に載せてあります。

実はこの「ことばのたからばこ」がありますと、私が以前勤めていた学校では、これをいくつ使えましたねというふうに文章中に使って、一つずつ使えていって、全部できると素晴らしいねというふうに活用することもできますので、子どもたちの語彙を増やしていく一つの手助けになるのではないかと思います。こういうものが光村図書に載っているという例を紹介させていただきました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他者よりもそういうところが光村は優れているという感じでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

他、委員の皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、ありがとうございます。といったん退室していただきます。

<調査委員退室>

(選定委員長) では、事務局の方から、当該種目の資料 B、C、D について説明をお願いします。

(学校指導課長) 資料 B の 1 ページをご覧ください。まず東京書籍についてです。項目 1 で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。項目 2、4、5 で 2 番目に多くの意見が挙げられております。意見の総数も 2 番目に多くなっております。教育出版です。項目 3 で 2 番目に多くの意見が挙げられております。光村図書です。項目 2、3、4、5 で全発行者の中で最も多くの意見が寄せられており、項目 1 では 2 番目に多くの意見が挙がっております。意見の総数も最も多く寄せられております。

続いて、資料 C の 1 ページをご覧ください。教科書展示会に寄せられた市民の意見のまとめについてです。左側をご覧ください。市民からは、「教材」や「記載内容」についてのご意見がありました。同じく資料 C の 4 ページ左側をご覧ください。移動展示では、「見やすさ・読みやすさ」についてのご意見がありました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、委員の皆さまからご意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。あと、内容の修正もございましたらよろしくお願ひいたします。

(選定副委員長) 調査委員会や研究委員会の報告書のとおり、特に調査委員会の調査研究項目の 8 や 9、2 などを参考にしますと、金沢市にとってふさわしい教科書が見えてきているのではないかと思ったところですけれども、先ほど質問した調査研究項目 1 の教育出版と光村図書の記述ですけれども、先ほどのご説明で光村図書の教科書の記述の具体的にいい点を挙げていただきました。この 2 者の記述の違いで、どちらが評価が高いのかが分かるように変更してはどうかと思ったところです。以上です。

(選定委員長) 今のご意見に対して何か他の委員の方からありますか。調査項目 1 ですかね。

(選定副委員長) はい、調査研究項目の 1。

(選定委員長) 1の単元の初めと終わりのところですかね。

(選定副委員長) というか、書かれている内容が。

(選定委員長) 東京書籍の方も結構配慮されているような書き方をされているとは思いますが、光村図書の方にもう少し重きを置いたような、評価されるような表現ということでしょうか。

(選定副委員長) 教育出版と光村図書の書かれている記述内容が対応していると思うのです。単元末と巻末で、どちらも工夫が見られるということですけれども、この記述を見るだけだと、先ほどのご説明の違いのようなところが分かりにくいのではないかと思いまして。具体的に言えば、光村図書だと巻末で観点ごとに内容を確かめるようなことがなされているとか、単元末ですとメモの欄があって、課題を書くようなことがあるというご説明を先ほど頂きました。問題はこの2者の記述を見て、この記述で優れている点が表現できているかということです。

(選定委員長) どうしましょうか。確実に定着するというところが表現の違いかなと思いますけれども、今のご意見だと、例えば「巻末でも具体的な観点から学びを確かめ」というような言葉を入れるといいのかなということを感じますけれども、いかがですか。他の委員の皆さん、今のご発言に対してもう少し評価が高いというか、いい点としてのコメントを明確にしたらというようなご意見はありませんか。よろしいですかね。

文言については委員長に一任していただきたいと思いますけれども、光村図書の方は「巻末でも具体的な観点から学びを確かめ」という言葉を少し入れて、またこれについては教育委員会での会議のときに、そういうことがあったということも含めて報告させていただくというふうにしたいと思います。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、そのように少し修正させていただきます。他、いかがでしょうか、委員の皆さん。もしご意見がなければ、感想なども含めて、こういう教科書がいい这样一个コメントも入っていいかなと思いますけれども、選定委員会の意見としては、内容を変えるほどではないけれどもということで報告させていただきます。

(選定委員) 感想になるのですが、私が質問させていただいた関連図書については、学校では並行読書を非常に重視しております、同じ作者ということもそうですが、同じテーマであったり、書きぶりであったりというところも関連させながら学習を進めていく这样一个形態を取っております。そういう観点からすると、先ほどご紹介があったような東京書籍や教育出版は、いわゆる物語にこんなものがあるよという紹介はあるのですが、具体的にこの作者にはこんな特徴があるという部分は、光村図書の方に分があるのかな、われわれの現場からすればやりやすさがあるのかなと感じるので、そういうところは私としては少しお伝えしたらいいなというふうに思っています。

もう1点、項目の2番についてです。今の話とリンクする話ではないかと思っているのですが、これについて3観点で振り返るというところも含めて、われわれとしては学習内容がきちんと定着できたかどうかということが非常に大切になっております。この辺についてしっかりと観点を定めているというところも、非常に大事な要素かなと思っておりまして、そういう観点からも適切かなというふうに感じております。

(選定委員長) ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

(選定委員) 先ほど質問させていただいた 5 番の現代的な諸課題というところについて幾つか見てみたのですけれども、まず調査委員会の評価として、現代的な諸課題というところに明文化された形で先ほどの情報リテラシーのようなことは入っていないんですね。改めて見てみると、説明でご紹介いただいた東京書籍の方は 5 年生でも扱いがあって、どちらもかなりボリュームがあるということと、もう一つ質間に回答してもらった光村図書についても、そのような扱いがあるというふうになっていました。

GIGA スクール構想で端末を使うようになって、インターネットができるようになって、情報リテラシーの部分というのは、特定の教科に偏らない、横断した形でのリテラシーが育成されるのかなと思うのですが、例えば最近は SNS でいろいろ炎上の問題があつたりというところも、本当に短い 140 文字ぐらいの文章できえちゃんと読めないという大人の状況ということがあって、そこを子どもの頃からしっかり国語力が身に付いて、しかも道徳で学んだ相手への思いやる気持ちのようなものも付いてこないと、そういうものがリテラシーになつていかないのではないかという気もするのです。そういう点から、国語でしっかりその問題が扱われているというのは、現代的な諸課題についての対応という形では評価できるポイントではないかなというふうに見ていました。

今回、全体的に SDGs の面が現代的な諸課題として取り上げがちなのですが、その教科にしかできない現代的な諸課題の対応という視点から見ると、国語においてはこの点の視点は結構大事なのではないかという気がしました。その点において東京書籍はかなりいいのではないかと思って、全体的な評価としては東京書籍も光村図書もいいので、その評価を変える必要はないとは思うのですが、その点についてしっかりとそういう形で触れられていたという点については、説明でもいいとは思うのですが、言及しておいた方がいいのではないかという気がします。

(選定委員長) どうしましょう。入れることも可能かと思いますけれども、口頭でよろしいでしょうかね。特に東京書籍の現代的な諸課題について、情報リテラシーの部分について詳しく取り上げられているという内容を少し入れさせていただこうと思いますけれども、よろしいでしょうか。光村図書の方はもう入っているということですけれども。

(選定委員) そうですね。光村図書も、説明にあったように 6 年生の部分で扱われているということでしたので。

(選定委員長) 光村図書の方は、文末で情報リテラシーの内容も取り上げられているということを付け加えさせていただこうと思いますが、そういうことでよろしいでしょうか。文章のつなぎや整理は委員長に一任していただければと思います。では、その辺はお認めいただいたということで。その他、ご感想でもよろしいですが。よろしいでしょうか。

それでは、確認させていただきます。調査委員会の報告に対して、ただ今審議された内容について修正を加えさせていただきまして、市民からの意見については教材記載内容、見やすさ・読みやすさについてのご意見があったということに傾聴して、国語についての教科書採択の答申を作成したいと思います。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。続いて、3 者ございますので、今のご意見から 2 者を選びたいと思いますけれども、掲載されている順番でいくと東京書籍、光村図書ということになろうかと思いますが、それでよろしいでしょうか。それでは、3 者のうち特に評価が高かった発行者は、東京書籍、光村図書ということで教育委員会に報告させていただきます。ありがとうございました。では、「国語」については終了させていただきます。

続いて、「書写」についての審議に入りたいと思います。

②書写

<調査委員入室>

(選定委員長) では、「書写」について報告していただきます。よろしくお願ひします。

(書写調査委員長) ただ今より、国語科書写の教科書の調査結果についてご報告いたします。国語科書写については、3 者の発行者について調査いたしました。3 者について、5 年生を中心に説明いたします。

まず、東京書籍についてです。調査研究項目 2、思考力・判断力・表現力等を育むための工夫についてお話しします。東京書籍 5 年生の 12 ページをご覧ください。この単元では「点画のつながり」について学習します。虫眼鏡マークの「見つけよう 1」に良い例と悪い例を提示しています。このように良い例と悪い例を提示し、比較して学習のポイントについて考えることで、課題を具体的につかむことができるよう工夫されています。悪い例として児童にありがちな課題のある例を取り上げることで、児童が自分事として捉えやすくなっていると思います。例の近くに書かれたキャラクターの吹き出しで示された視点について考えることで、より明確に学習のポイントをつかみ、課題解決に向けて学習を進めることができますようになっています。視点の示し方については、キャラクター以外にも 20 ページに話し合いのマークで示されることもございます。

12 ページに戻りまして、さらに例の近くに二次元コードがございます。この二次元コードを読み取ると動画で分かりやすく説明されており、子どもたちが自分自身で課題解決に取り組んでいくことが期待できると思います。1・2 年生は少なめですが、どの学年でも取り上げられており、これが東京書籍の特徴の一つと考えております。

<動画>

次に、教育出版についてお話しさせていただきます。調査研究項目 5、各教科との関連についてお話しします。5 年生 19 ページをご覧ください。ここでは「社会で生かす」として、工場見学のメモの仕方について取り上げています。19 ページで四つの場面を挙げて、目的に合った書く早さについて考え、20、21 ページで具体的なメモの仕方を提示しています。見学の際に使ってみよう、生かしたいという意欲が高まると思います。他の学年でも、算数や理科のノート、原稿用紙、図工の作品カード、はがき、校外学習のリーフレットなど、各教科や普段の生活との関連の充実が図られ、活用したいという思いが促されるものとなっています。これが教育出版の特徴の一つと捉えました。

続いて、光村図書についてです。調査項目 1、基礎的・基本的な知識や技能の習得についてお話しします。5 年生の 6 ページをご覧ください。6 ページの左下に「たいせつ」という緑色の欄があります。各教材で学習する大切な技能ポイントが明確に書かれています。また、図なども用いてさらに分かりやすく学習のポイントを捉えることができるようになっています。このページでは朱墨で示され、筆遣いにおいて穂先の位置、運筆が分かりやすく、留意点への配慮が一目瞭然で、シンプルで分かりやすくなっています。朱墨で示すだけでなく、16 ページの「たいせつ」では図で示すなど、視覚的に分かりやすくなるよう工夫されています。

他の学年でも、キャラクターを用いて「ぴた」「すう」「ぴょん」「とん」「すう」「とん」など発達段階に応じたページの仕方が工夫され、楽しみながら学習を進め、基礎的・基本的な知識技能を習得することができるようになっています。さらに巻末には「学年のまとめ」として 1 年間の学習が一目で分かるようにまとめられ、二次元コードを読み取ると前の学年までの「たいせつ」を見ることができ、既習事項を確認して次の学年に進むことができるよう工夫されています。これが光村図書の大きな特徴と捉えました。

以上、国語科書写の 3 者の発行者についての報告を終わらせていただきます。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さん、ご質問をお願いします。それでは私の方から、項目5の関連になりますけれども、先ほど複数の教科、他教科との関連で、教育出版の説明がありましたが、他の発行者で、これは関連が図られている、いい工夫がなされている、というような事例はございましたでしょうか。

(書写調査委員長) どちらの発行者も大変工夫されているなと思いました。中でも教育出版を高く評価させていただいたのは、一番多く他のいろいろな教科を分かりやすく取り上げていたということで、今回ここで説明させていただいた次第です。

(選定委員長) 分かりました。数が非常に多かったのですね。

(書写調査委員長) その他、光村図書についても、6年生では中に入っている冊子で「書写ブック」というのがございまして、こちらの方でもこのように手紙などを取り上げて、分かりやすくまとめたものがあるのが特徴的だと思いました。光村図書はこの他に、4年生ではSDGsを取り上げたページも特徴的だなと思っております。

(選定委員長) ありがとうございます。その点も聞こうと思ったのですが、教科の関連だけではなくて5番に「現代的な諸課題」とありますよね。書写ですから現代的な諸課題はどんな扱いをしているかなど。今のSDGs的な側面からも調査されたということになりますかね。他の発行者はいかがですか、現代的な諸課題について扱いは何かありましたでしょうか。

(書写調査委員長) SDGsについては光村図書がこのように一番分かりやすくまとめてあったかなと思います。簡単なSDGsに触れるぐらいの、文字に書くぐらいのものはありましたが、これだけSDGsについて取り上げているのは光村が特徴的だったと思います。

(選定委員長) 他に現代的な諸課題で何か扱っていることはなかったですか。会議で議論された中では特になかったですか。

(書写調査委員長) 他のところについては、協議の中ではあまり出てこなかった次第です。

(選定委員長) ありがとうございます。他の委員の皆さん、いかがでしょうか。

(選定副委員長) 2点ございます。1点目は、冒頭のご説明でもありました調査研究項目1に関してですが、例えば学習するポイントをどう示すかということで、光村図書ですと「言葉でまとめられている」というふうに書かれております。教育出版ですと「言葉や図版を用いて」と書かれているのですが、先ほどのご説明ですと光村図書も図版を用いていたりというご説明だったのですが、こういう記述でいいかどうかというところで気になったのですが。

(書写調査委員長) ありがとうございます。おっしゃるとおりだなと思っています。光村図書について特に言葉を挙げたかったのは、短い言葉で分かりやすくまとめてあって、そこが特徴的だなと思いましたので、言葉を強調させていただきました。教育出版につきましては、言葉もそうなのですが、朱墨が目立つような形で、すごく大きなスペースを取って示されていたので、それが特徴的かなと思いました、そこに言葉を入れさせていただいた次第です。

(選定副委員長) ありがとうございます。もう1点ですが、字を書くのが苦手な子がいます。ディスレクシアですか、特に書字障害の子に対する教科書の配慮みたいなものは

各者あつたりするものですか。それとも、それは担当する教員が配慮していくような現状なのでしょうか。

(書写調査委員長) 書字障害については本当にその子その子に応じた形になってくるのかなと思いますけれども、今回二次元コードで動画等があるということは、とても身近に目の前において子どもが見ることができるので、分かりやすく捉えることができるかなというふうに思っています。例えば、黒板に書いたものを見ながら写すということが苦手な子どもおります。その子にとっては、手元に自分の1人1台端末を使って身近なところを、目の前で見ながら、なぞりながらということができるので、それはこの二次元コードがあるということは、動画があるということはすごく指導がしやすく、本人にとっても分かりやすい状況をつくれるのではないかと思っております。

(選定委員長) よろしいでしょうか。動画についてはどの者も同じような感じで、多少特徴があるのでしょうけど、大体は同じような感じでしょうか。

(書写調査委員長) 動画については3者とも取り上げられておりますが、特徴的なのは私は光村図書だと思っています。現行の教科書では、二次元コードを子どもが自分の1人1台端末で写そうと思ってもなかなか開かないという現状があつて、結果今は先生方が大きく二次元コードをコピーしたものを提示して、開くようにしている先生も何人か聞かれています。今回のものは現行のものより少し大きくなつておつりまして、今回自分が調査するに当たつて、割とスムーズに子どもでも開くことができたので、現行のものよりは開きやすくなっているというふうに感じました。

また光村図書の方は、最初正面から書くものが出てきて、その後続けて左斜めから書くところも映されています。そういうことで穂先の動かし方などがよく分かって大変見やすくなつたなと感じました。さらにその後、「ふりかえろう」というコーナーがありまして、ここのポイントはできたか振り返ろうということで、自分の字をもう一回確かめることもできるようになっておりましたので、ここがすごく特徴的ではないかと思って見させていただきました。東京書籍の方もアニメーションを使うなどして、ここはどうなつているかなというような動画を、子どもたちを惹きつけやすい動画を採用されているのも良かったと思っております。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 動画の話が続くのですが、今使つてゐる現行の教科書に変わつたタイミングで、書写は二次元コードで動画がかなり見られるようになつたかなと思うのですが、そのときに実技科目で実際に上手な人がやつてゐるものを見られるといふのはすごく学習効果が高い。特に書写はそれが一番あるのではないかと思って見ていました。

ただ、現行の教科書に変わつたタイミングというのはまだ学習用端末が導入される前でしたし、そのときにお話を伺つたところでは、実際にそれを読み取つて授業中に学習に使えるかどうかというのは課題としてあるし、実際に実技をするときはやはり机のスペースの問題もあるので、そのあたりがどう活用できるかというところが分からぬといふお話をだつたのですが、何年かたつて実際に子どもたち全員が読んで見られる端末を手にした状態で、実際に授業中とか、家庭で休み中に使うこともあるのかもしれないですが、この動画コンテンツの活用といふのはどういうふうに進んでいるでしょうかといふのが1点と、その評価が今回の教科書を評価する上でどのくらい重要なポイントになるかといふところをご意見としてお伺いできればと思います。

(書写調査委員長) いろいろな学校を見たわけではないので、本校の状況でお話しさせていただくことになると思うのですが、例えば休み時間の間に授業の準備をしますよね。書写の準備をして少し待つてゐる時間に動画を見ているパターンが結構あります。それと、

書き終わった子がもう一度動画で振り返るために見ている授業が本校では見られます。1人1台端末自体は、使う授業のときには、ほぼ横のかばんに入っているので子どもたちは慣れたものでそこからすっと出して見る、書くときには片付けるという形になるので、スペース的には問題はないということと、どうしても書くという活動には個人差で時間差ができるてしまうので、その時間にもう一回振り返って見ることができるというのは基礎・基本の定着につながっているのではないかと思います。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 最後の調査研究項目の9について少し確認したいのですが、金沢型学習スタイルの中で、同じ巻頭の「良い学習の進め方について」というところを取り上げながら評価されたと思うのですが、調査委員会の報告書では、多少差が付いているように感じました。少しそれについて補足していただければありがたいのですが。

(書写調査委員長) 3者とも自分で学習を進める手順がしっかりと示されていて、どの発行者も良かったなと思うのですが、特に東京書籍は話し合いということも視点に当てている点が良いと思いました。例えば5年生の巻頭の2ページですけれども、「みつけよう」のところに「考えたことを友だちと話し合ってみよう」というふうに投げかけていて、話し合いをしながら進めていくところが、金沢型学習スタイルで求めている「みんなで」という部分が実現されていくのかなと思って見させていただきました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。では、いったん書写調査委員は退出いただきます。ありがとうございました。

<調査委員退室>

(選定委員長) それでは、事務局から当該種目の資料B、C、Dについてのご報告をお願いいたします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの2ページをご覧ください。東京書籍についてです。項目1で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。教育出版です。項目の2、3、4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。意見の総数については、光村図書に次いで2番目に多くなっております。光村図書です。項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、項目1、2、3、4では2番目に多くの意見が挙げられております。意見の総数については、最も多くの意見が挙げられております。

資料Cの市民からの意見についてはございませんでした。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。では委員の皆さん、修正等も含めてご意見をお願いいたします。

(学校指導課長) 先ほど二次元コードの話が中心に出ていたかと思いますけれども、教科書の採択に当たってはあくまでも紙の教科書であるというところがポイントとなってくると思います。ただし、教科書の特徴として、各発行者が二次元コード等を取り入れている部分もあるとは思いますけれども、採択の検討の在り方については紙の教科書がベースとなるというところを押さえていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

(選定委員長) では、委員の皆さん、よろしいでしょうか。私も1回目の会議のときにそれを言ったように思います。あくまでも参考というような、気にはなるところではあるので参考ということでございます。紙媒体の教科書を中心ということでお願いします。委員の皆さん、いかがでしょうか。

(選定委員) 感想みたいになってしまふのですが、書くということは、今でいうと入力というよりはタイピングということに置き換わっている中で、もちろん書くこともとても大切ですが、見ていると子どもたちもタイピングのスピードを競つてみたりしているところもあつたりする中で、今後は何かこういうタイピングみたいな要素はここの評価項目に入れることができないのかと思ったことと、あと現代的な部分でいうと、例えば言葉の暴力というか、言葉の持つ力とか、もちろん言葉の力強さとか、いろいろ表現がある中で、そういう言葉による、いじめではないですけれどもそういうものにつながることも幅広く考えたらそういうこともあるのかなと思ったときに、先ほど聞けばよかったです、が、言葉ということ、書くことというのをもう少し、今の諸問題の解決に向けたような評価項目があつてもいいのかなと個人的には思いました。意見です。

(選定委員長) そういうご意見があつたということになるかと思います。書くことですので、言い出すと全教科に関わってきますので、書写ということで従来からの狙いで言えばきちんと文字を書いていくというのがまずは基本になって、それに関連して、興味を持って、書く内容についての知識を得ていくということになるかと思います。広げていくと本当に道徳的な問題も関わってくるかもしれませんけれども。そういうご意見があつたということになろうかと思います。ありがとうございます。他、委員の皆さん、いかがでしょうか。

(選定委員) 感想です。光村図書の4年生のところが、中にSDGsブックがあるのが特徴的というお話でした。書写の時間が終わった後、子どもたちは手が真っ黒、洋服も汚したり、そして担任の先生は大きなごみ袋を抱えてごみを捨てに行くというような状況がありますので、できるだけごみを少なくという取組は本当に大事だと思いますし、水をジャッパと出して筆を洗うのではなく、23ページにありますようにボトルの中で墨を落とすみたいなことを教えていくのも大事だなと感じました。これが1点目です。

2点目ですけれども、同じく今の4年生の光村図書ですけれども、20ページに横書きの書き方、理科のノートなどが書かれています、子どもたちはこんな美しいノートを書きたいなというふうに思うのかなと思います。前に戻って18ページの方も、国語の「白いぼうし」の例があつて「ノートの達人になろう」とか、後のページでも例えば同じ4年の28ページに「リーフレットの書き方」がありまして、本校でも同じように総合的な学習の時間に、例えば九谷焼であつたり、金沢箔の金箔のリーフレットを作っていたなと思います。それがすごく参考になるなということを感じまして、なかなか優れた教科書だなと思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。感想ということで。他にいかがでしょうか。感想でも結構です。

(選定委員) 書写というのは、現場では実は担任以外の者が持つことが結構多いのです。週に1時間のものでどうしてもそういうことが結構多かつたりするものですから、担任がやれば担任の指導のペースであつたり学習の流れというのはある程度決まっていくわけですが、担任以外がぽつと来て授業をするということになると、しっかりと定着させるということが大事かなと思っています。そういう観点からすると、評価項目1であつたり、9であつたり、8であつたりというところがわれわれとしてはすごく大事かなというふうに感じています。そういう観点からすると、光村図書はいいのかなと私自身は感じております。まさに感想ですけれども、ここが大事にされればいいなというふうに考えております。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 先ほどのタイピングの話と関連するかもしれないのですが、学習端末が導

入されて、書写を学ぶ意味というのがより明確になったかなと感じています。ちょうどGIGAスクール構想で端末が入ったときに保護者の方から、「こんな端末が運用されて、子どもたちの書く力が落ちるのではないか」という意見が出たというのが印象的だったのです。

そのときに、登壇したディスカッションのところでも言っていたのですが、書く力とは何か、文章を書くために必要な道具とは何なのかというのを、自分が使いやすい道具を選んでいくようになっていくという話がありました。この書写的教科書を見ると、例えば教育出版であれば5年生の19ページ、東京書籍では5年生の36、37ページで、毛筆で上手に書く、硬筆で上手に書くということだけではなくて、例えば教育出版の工場見学のメモであれば、そこで必要な書く力というのは限られた短い時間の中で必要な情報を書き留めることが大事というふうに言っているし、東京書籍の36ページは「6年生に贈る言葉を書こう」ということで、「相手に気持ちが伝わるために手書きがいいよね」という形で、手書きで書くのを書写で学んでトレーニングすることが、端末を使って書く文章と使い分けがちゃんと明確になっているなというふうに感じます。

なので、そのあたりがきちんと表れているので、そういうところを踏まえて文房具、文具、道具の使い分けという中で学んでいけるようになってきていることが表れていて、いいなと感じました。そのあたりもきちんと子どもたちに伝わりながら、勉強する機会になっていくといいなと感じました。感想です。

(選定委員長) ありがとうございます。また報告の中に入れさせていただくことになります。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 6年生の教科書をそれぞれ見させていただいたのですが、光村図書の38ページに、学んだことを毛筆や硬筆以外の通信文の中で生かすようなページがあるのが面白いなと思いました。書写で学んだ余白の使い方であったり、文字の大きさなどをこういったところでも生かしていけるのだということを、このページでは紹介されているのだなということで、この発行者の良さを改めて感じました。感想です。

(選定委員長) ありがとうございます。また報告のときに内容を報告させていただくことになります。他はよろしいでしょうか。では、特に修正のご意見はございませんでしたので、確認させていただきます。報告書の内容については特に修正がございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重して書写における教科書採択の答申を作成したいと思います。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。そうしますと3者ございますので、他者と比べて評価が高かった発行者となりますと、表現的に、あるいはこれまでのコメント、ディスカッション、それから各学校からの報告なども踏まえて、東京書籍と光村図書の2者ということになるかと思いますが、よろしいでしょうか。では、その2者を教育委員会の方に報告したいと思います。ありがとうございます。

③算数

<調査委員入室>

(選定委員長) それでは、算数調査委員長の方からご報告をお願いいたします。

(算数調査委員長) 算数については6者の発行者について調査いたしました。

まず、東京書籍については、2年生以上に数回、「今日の深い学び」というコーナーが

あり、金沢型学習スタイルに基づく学習が展開できるような構成が可視化されているという点に特色があります。例えば、3年生上巻15ページをご覧ください。上部に既習を想起させるような問題提示があり、右側上段には「問題をつかもう」とあります。これは金沢型学習スタイルの「学習のめあてをつかみます」に当たり、本文中の「？」マークが学習課題になります。右側下段には「自分の考えをかき表そう」とあり、金沢型学習スタイルの「自分で考えます」に当たります。次のページの左側には「友だちと学ぼう」とあり、「自分の考えを伝え合います」や「みんなで考えを深めます」に当たります。ここでは、自分の考えと他者の考えについて共通点や相違点を見いだし、図や式などを用いて説明するよう促すような発問も用いられ、協働的な学びへの工夫がされています。さらに次のページの右側には、「ふり返ってまとめよう」というのは、学習スタイルでいきますと「『わかった』『できた』をまとめます」に当たります。まとめとして、本時のまとめがあり、虫眼鏡マークで算数の見方・考え方も明記されています。そして右側の「使ってみよう」は適用問題になります。これが特色です。

続いて、大日本図書です。大日本図書については、全学年に「プログラミングにちょうせん」の特設ページが充実しているところに特色があります。例えば1年生132ページをご覧ください。「何マス進む」「右に回る」「左に回る」の3種類の命令カードを使ってゴールを目指すという数学的活動を行い、プログラミング的思考に触れる構成になっております。右下の二次元コードを利用すれば、Scratchを使ったプログラミングができるよう構成されています。また133ページの下部分にありますように、「さんすうたまてばこ」のコーナーがあり、学習したプログラミング的思考と同じ考え方方が身の回りで使われている例を取り上げ、身近にプログラミングを感じられるよう工夫されています。

2~6年生では、「プログラミングにちょうせん」のページが2カ所設定されています。例えば4年生52ページをご覧ください。アルゴリズムが紹介され、コンピューターを使わない数学的活動でプログラミング的思考を育むように工夫されています。また162ページでは、コンピューター・Scratchを使ってプログラミング的思考を育むよう工夫されています。全学年に設けられているということで、系統的にプログラミング思考を育むことができるよう配慮されているところが特色です。

続いて、学校図書です。学校図書については、2年生以上の各単元末に「考え方モンスターでふりかえろう！」というコーナーが作成されているところに特色があります。例えば2年生上37ページをご覧ください。「10のまとまりとばらに分けて考えると、1年生のときに学んだ足し算と引き算と同じように計算することができました」とあり、1年生で問題解決に使ってきました「見方・考え方」「分ける」「同じように」を振り返りながら、単元の主な学習内容も振り返ることができるよう配慮されています。既習と関連付けて「ワッケル」と「オナジン」という「考え方モンスター」というキャラクターを活用し、統合的に考えるようまとめられているところが特色です。またもう一つの特色としては、4年生以上の計算の学習場面で、数直線と4マス関係表を活用しているところに特色があります。例えば、4年生上の105ページをご覧ください。倍の計算の学習において、「場面」「図表」「式」をつなげて考えて問題解決できるよう配慮されているところが特色です。

続いて、教育出版です。教育出版は2年生以上の単元末に設けられている「学んだことを使おう」に特色があります。3年生下、32ページをご覧ください。日常生活の中から算数を見つける活動になっています。また同じく3年生下、101ページをご覧ください。ここでは、日常の問題を算数を使って解決する活動があります。数学的な見方・考え方を働かせて、日常の場面をつなげて使えることができるよう配慮されているところが特色です。

続いて、啓林館です。啓林館についても、全学年についてプログラミング思考を育む「わくわくプログラミング」が設定されているところが特色です。例えば1年生94、95ページをご覧ください。既習の「なんばんめ」を生かして、位置の表し方について学びます。「上に進む」「右に進む」の2種類の命令を使ってロボットを動かします。プログラミング体験を通して学ぶことで、プログラミング的思考も育むようになっています。また、全学年でScratchと教科書オリジナルのコンテンツが用意されています。いろいろな考えを何度も簡単に試し、児童が創造的に取り組むことができるプログラミングのコンテンツと

なっていて、系統的にプログラミング的思考を育むよう工夫されているところが特色です。

最後に、日本文教出版についてです。日本文教出版では3年生以上で「よみとろうあらわそう」というコーナーがあり、演算決定の基となる数直線図の書き方について明示しているところが特色です。例えば4年生下166、167ページをご覧ください。ここではかけ算とわり算の場合が並べられており、かけ算とわり算では図に表すとどのような相違点があるか考えさせるようなところもあります。問題場面と数直線図をつなげて考えられ、金沢ベーシックカリキュラムにおいてこれまで数直線を大切に指導してきている点につながるところが特色です。以上、6者の特に優れている点について説明を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では委員の皆さん、ご質問をお願いいたします。

(選定委員) 調査項目の8番に関して、数直線で評価されていると思うのですけれども、今のご説明の中で2者について数直線が出てきたかと思います。他の発行者でここは特徴的なだなというのはございましたでしょうか。

(算数調査委員長) 1カ所ずつ申し上げたいと思います。東京書籍につきましては4年生下、140ページをご覧ください。巻末になっておりますけれども、「数直線の図を使って考えよう」というのがありますと、量感を意識した数量関係の表し方を理解して演算決定ができるよう配慮されています。

大日本図書については、同じく4年生で272ページをご覧ください。これも巻末ですけれども、数直線図の書き方、四角を使った情報の式で表すとなっています。四角を使った情報の式で表すことで、求めるものが異なる場合でも問題解決できるよう配慮されています。

学校図書におきましては、5年生上の123ページをご覧ください。小数・分数の乗法の学習場面では、数直線図や4マス関係表を活用して場面・図表・式をつなげて考えて問題解決できるよう配慮されております。

教育出版については6年生の32ページをご覧ください。乗除の学習場面で吹き出しを活用し、数量関係を分かりやすく表現しています。数直線や式の意味が理解できるよう配慮されています。

啓林館については、6年生39ページをご覧ください。数直線図と関係図を組み合わせて示しております。関係する二つの数量を捉えることができるよう配慮されております。

最後に、日本文教出版については4年生下、166ページをご覧ください。先ほど申しました「よみとろうあらわそう」というページになっております。以上になります。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、ご質問いかがでしょうか。

(選定副委員長) 今、ご質問くださった数直線図の扱いを各者ご説明いただきました。他方で、この評価が若干差が付いているように見えました。例えば、大日本図書、学校図書が日本文教出版よりもいい書きぶりのように見えるのですけれども、その違いが私にはまだ見えないところがあるのですけれども。一例で言いますと、学校図書で4マス関係表について冒頭でもご説明いただきました。そうした点でここは優れているということでしょうか。あるいは、大日本図書だと巻末に整理されていて評価が高いということでしょうか。

(算数調査委員長) はい、おっしゃるとおりでありますと、大日本図書は巻末に整理されて見やすくなっているというところが、調査委員会の中では特に配慮されているなと思ったところです。それから学校図書ですね、4マス関係表と数直線図が出てるところが、教科書の内容を読んでいくとキャラクターの言葉の中に「どちらも使えるね」という吹き出しがあったりして、数直線図が苦手な子にも4マス関係表を示しているという、「どちらも使えるね」「どちらでも使って学習できるよ」という、選択させるような学習の流れ

になっているということで特に優れているなと感じました。

(選定副委員長) そうしますと、例えば今ご説明くださった数直線図と 4 マス関係表ですと、4 マス関係表の方が確かに書きやすいというか、数量の関係の情報量が少ない分、そういう面で捉えやすい一方で、長さや面積で表されている大小関係が見えにくいという側面もあって善しあしがあるかなと思うのです。こうした数量関係を表現するものが複数載っているという点で優れているなと思うのですけど、他者も表現が複数あって、その差が何で付くのかなというところがまだ、ご説明いただきたいなと思います。

(算数調査委員長) 数直線図は割合の関係のある演算決定に使うものなのですから、数直線図だと量感覚が捉えやすいということで、特に量感を感じて演算決定をしていくところでは捉えやすいものではあるなと思います。4 マス計算は特に量感がなくても書けるところが秀でている点かなとは思うのですが、金沢市の指導の中ではやはり児童に量感を大切にして学習を進めていくということを主に考えておりますので、数直線図で指導しております。また啓林館の方の関係図なのですけれども、啓林館はブラックボックス的な関係の図になっているので、演算決定をする面では扱いにくいと感じています。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、ご質問はいかがでしょうか。

私の方から 5 番目の関連になるのですが、プログラミングのことが多いのですが、マス数を扱う他の関連の教科もあろうかと思います。他教科との関連で少し特記できるような教科書はございますでしょうか。大体皆さんのが扱いは同じですか。他教科との関係みたいなものは。

(算数調査委員長) 調査委員との話の中では出てはいないのですが、私の見ていたところではそれほど差はないかなと思っています。1 年生で他の学習とつなげたり、3・4 年生では社会科や校外学習との関連などが示されていたと思います。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 5 番の現代的な諸課題ということで、プログラミングのことがどう扱われているかというところで質問なのですが、中には 1 年生から取り扱いがある教科書があつたり、東京書籍は 4 年生以上となっています。全学年にあるというものの中でも、例えば大日本図書などを見ていると、実際にプログラミング、Scratch を使って解く解き方もあるれば、付録にカードが付いていてそれで解くことができたりという形で、かなり 1 年生から楽しみながら学べるような扱いになっているのかなというのもあつたりします。一方で東京書籍については扱いが「新しい算数プラス」みたいな形で、プラスアルファの内容としてプログラミングの部分が扱われているのかなと内容を見ていて感じました。

そのあたりを踏まえて、片や 1 年生からしっかりと取り扱われているものがある一方で、そういう形で 4 年生以上から少しずつ入ってくる教科書があるというものを、算数の一部、プログラミング的思考を育むという視点で入ってきている内容かとは思うのですけれども、そのあたりを比較したときに、4 年生以上にしか扱いがないものを、どの程度の評価的な違いがあるのかとか、実際に 4 年生以上にしかないととはいっても金沢の場合は別の教材を使いながら授業をしていたりというところもあると思うので、例えば 4 年生以上にしかないという点がどの程度の、恐らくこの評価だけを見ると 1 年生からしっかりとある方がいいという評価になっていると思うのですが、そうではないものがどの程度のビハインドになるのかというところの評価といいますか、そのあたりは金沢の状況を踏まえた上でどういう理解をすればいいのかというところで少し解説を頂けたらと思います。

(算数調査委員長) 確かに東京書籍は、4 年生以上で算数の中でプログラミングを教科書で扱っているというところは他者とは随分違うなというのは、調査委員会の中でも出て

いました。全学年であれば系統的に積み上げていけるところがあると思うのですけれども、今の金沢市では、ICT サポーターに来校いただきながら、プログラミングについては年間数時間 1 年生から体験しておりますので、特に算数だけで育むものではないかなと考えております。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

私の方から最後に 1 点だけ。算数ですから数量が大切なのですが、やはり小学生ですから具体的な絵と数の関連から見ると分かりやすいと思うのです。東京書籍の方が他者に比べてやや評価が高いのかなという気がしますが、その辺の違いや特徴がもしあれば教えてください。図や写真などを用いたとかですね。

(算数調査委員長) 東京書籍は絵や図表を、演算の中、計算の仕方の中でも取り上げておりますし、問題場面を把握するときでも絵や図がとても多いなと感じています。例えば 1 年生から多いなというところがありまして、1 年生の②の方の教科書ですけれども、53 ページをご覧ください。53 ページの「三つの数の計算」のところでは、問題と絵があります。ブロックもあります。それから、「9 ひきのっています」の下にはノートの書き方も載っております。このように絵と付録、それから文とノートの扱いというところも同時に示されているので分かりやすいなということが調査委員会では出ておりました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、調査委員長ありがとうございました。ご退出ください。

<調査委員退室>

(選定委員長) それでは、事務局から当該種目の資料 B、C、D についてご報告をお願いいたします。

(学校指導課長) 資料 B の 5 ページをご覧ください。東京書籍についてです。項目 1、2、4、5 で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、意見の総数についても最も多くなっております。大日本図書についてです。項目 3、5 で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、意見の総数については全発行者の中で 3 番目に多くなっております。学校図書についてです。項目 2 と項目 3 で全発行者の中で 2 番目に多くの意見が挙げられており、項目 1 と項目 4 では 3 番目に多くなっております。意見の総数につきましては、全発行者の中で 2 番目に多くなっております。続きまして、教育出版です。項目 3 で全発行者の中で 3 番目に多くの意見が挙げられております。啓林館です。項目 1 で全発行者の中で 2 番目に多くの意見が挙げられており、項目 5 では 3 番目に多くなっております。日本文教出版です。項目 4 で全発行者の中で 2 番目に多くの意見が挙げられており、項目 3 では 3 番目に多くなっております。

続いて、資料 C の 2 ページをご覧ください。教科書展示会に寄せられた市民の意見のまとめです。左側の上段をご覧ください。市民からは「学習内容」や「学習の系統性」などについてのご意見等がありました。

同じく資料 C の 5 ページの左側下段です。移動展示です。「挿絵や写真」「学習内容」などについてのご意見が挙げられております。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは審議に進みたいと思います。修正等も含めてご意見がありましたら、お願いします。

(選定委員) 先ほどのプログラミング的思考の話にどうしてもなってしまうのですが、大日本図書の教科書を見ていると、2 年生からアルゴリズムというのがキーワードで出しているのはまさに衝撃だなと思ったのですが、全体的に見ていてもすごくプログラミング、

別にプログラミングは教科ではないのですが、そこのコンテンツに関しては非常に充実しているなと思いました。ただ、評価項目を見ていると意見が全然入っていないのが何か悲しいという思いがあります。逆にこれだけしかない、すごく優れているのにそこの点数が反映されていないのはどうなのかというのを個人的に思ったのと、やはり今は何でもそうですけれども、いわばGIGAスクール構想なども未来の職業対策という側面がある中で、現代的な諸問題の対応の項目で評価されないのも何か寂しいなと。東京書籍の評価があまり高くなないので、その辺が寂しいというか、一抹の不安を覚えてしまうかなというのが保護者の意見としてなのですが。

それは先ほどのICTのサポーターでリカバリーできているというのであればまたそれはそれかなとは思うのですが、その辺の評価項目はどうなのかなというのを何となく思いました。逆に東京書籍の方は金沢型学習スタイルのポイントがしっかりと反映されている部分も、僕もどういった評価項目なのかは捉えきれていない点はあるのですが、その辺が実際どうなっているのかというのは、興味といいますか、ちょっと気になるところだなと思いました。以上です。

(選定委員長) どういたしましょうか。大日本図書の方をもう少し素晴らしいを反映させたような文言修正を少し加えた方がいいでしょうかね、今のご意見だと。

(選定委員) 今の課題に対してこれは対応できていない教科書みたいな見方もできてしまうので、そこはいかがなのかということがございまして。

(選定委員) 関連するのでいいですか。ちょうど意見として同じところに触れたいなと思っていて、先ほどご質問させていただいたポイントなのですが、実は昨日、事務局の方に質問させていただいたものとも実は関連していて、東京書籍のプログラミングに扱いについては金沢としてはどうなのかというのは事前に見ているときから気になったポイントでした。

そこをカバーできる部分として、金沢は、昨日もご回答を頂きましたけれども、独自の教材を使って1年生から、教科書ではなくてそういう小さなロボットなどを使いながらプログラミングをしているのは前から見ていて、そういう使いやすい教材を導入してそうしてやっているという部分は、そこと総合的に組み合わせると東京書籍の評価についてもそれだけではないというところでカバーができているのではないかと思いながら、でも実際にそれが行われていないのであればそもそもいえないしというところで、昨日の質問にもつながっていました。

なので、そのあたりが1~3年生のプログラミング、実際にその教科書で使うのか、何で使うのがいいのかというのは教え方にもよると思うのですが、そのあたりがカバーできているのであれば、このあたりの評価はそれを踏まえた上でそれほど問題にはならないという評価をしてあげてもよいのではないかという気がしていますという、同じ部分での意見でした。

(選定委員長) どうしようかな。まず大日本図書の方は「特設ページが充実しており」ということですけれども、すごくそこがいいのだという評価を入れるような言葉ですか、何かいい表現はございますか。

(選定委員) 教科書そのものの内容としては、他に比べていいといえる内容ではないようなところもあると思います。

(選定委員長) 大日本図書ですか。

(選定委員) 東京書籍です。

(選定委員長) 東京書籍の方はそういう意見があつて、独自教材との関連性を持たせるような留意が必要になってくるような評価ではないかというご意見があつたということは報告できると思いますけれども、検定を通っている教科書なので、ここは駄目ですよといふ表現はちょっといかがなものかと。教科書は4年生からですので1年生から推進したい場合にはちょっと物足りないかなというような、口頭での報告にならうかと思いますけれども。また、金沢が独自で進めておられる教材との関連について留意しないと駄目ではないかというご意見があつたという、私自身が教育委員会に出す報告にならうかと思います。

大日本図書の方もできれば表現をもう少し工夫したいのですが、どう強調すればいいかなという。それも口頭で、特に全学年を通じて非常に工夫されて、非常に評価が高いということで説明を付け加えさせていただければと思うのですが、表現として内容をこんなふうにもう少し詳しく入れたらいいということがあれば、他者に比べて特に内容、あるいは内容量が多かったり、扱っているものが非常に分かりやすいとか、特殊性があるということでもいいかもしれませんけれども、何かそういう言葉があれば入れたいと思います。いかがでしょうか。

(選定委員) そうしましたら、算数の教科の中身自体は全くの素人なのであれですけれども、プログラミングに関しては仕事がソフトエンジニアということで少しその観点から言わせていただきますと、まず1年生に端末を使ったプログラミングの授業ができるかというと、難しいことが当然出てくる中で、大日本図書のものはカードを使ってそれを解くことができるという形で、小さい子にも実践できるような取り組みをしているという特徴があるように感じました。

一方で、同じように今度は6年生を見ると、176ページで「形が同じ図形を見分けよう」ということで、アルゴリズムに関しての条件分岐の実践例を説明しているところで、必ずしもプログラミング言語を使ってプログラミングのことを学ぶということを重視するのではなくて、本来の目的であるプログラミング的思考を身に付けるという考え方において、1年生から6年生までその年齢に合った教材を使いながら学べるようになっているところがいいポイントなのではないかなという印象を持ちました。

(選定委員長) この場で適切なまとめにはなっていないのですが、例えば「低学年においてもカードなどの工夫でプログラミング的思考を工夫した教材があり、全学年において充実した内容で単元の学習内容と関連付けて深く考えることができるようになっている」とか、例えばそういうところをもう少し具体的に強調した表現にさせていただくということでおろしいでしょうか。

今言っていた内容も少し加味しながら、言葉的に十分に量的に表現できなければ、また報告のときに「選定委員からこういうことが強調されております」という、口頭で補った表現にはなるかもしれませんけれども、その辺は一任していただいてよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。他、委員の方でご意見、修正意見等ございましたら。いかがでしょうか。意見が出なければご感想も含めて結構ですけれども。

(選定委員) プログラミングのことですけれども、確かに東京書籍の方は4年生以上の掲載となっています。ただ、今年度より金沢市は月3回ICTサポーターの方が来校してくださるので、1学期からプログラミングのロボットを動かす学習を1年生は行なうことができました。算数の中では確かにないのですが、1年生として確実に行なわれているということはいえると思います。

東京書籍の教科書なのですが、先ほど説明にもありました、例えば1年生の53ページに「ネコは何びき乗っていますか」という、「三つの数の計算」などは他者と比べてみて

も絵とブロックとノートの書きぶりがつなげて書いてあるところがやはり算数の中ではとても大切なことで、1年生でも算数が「わかった・できた」ということにつながっていくのではないかと思いますので、その辺が東京書籍の方は大変丁寧だなという感想を持ちました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。

(選定委員) 今の「わかった・できた」に関してですけれども、算数科というのはやはり、その時間の中で「わかった・できた」ということが子どもたちにあれば、その1時間がとても満足できる授業というか、時間になるのだろうと思っているのですけれども、その点で東京書籍の習熟問題なのですが、研究委員会の調査報告書の中にも習熟問題の適切さが多く挙げられていました。習熟問題で8問ある場合に「この問題とこの問題をとにかくやってみよう。それができれば、この時間の基礎的な力は付いているよ」ということが測れる問題が色分けされていて、授業者としてはとてもやりやすい、使いやすい教科書だなと思っております。

児童によっては個人差がありますし、その時間の中で8問できる子もいれば頑張って2問という児童もいる中で、「この問題をしましょう」ということを示すことができるということは、その子どもにとっても、授業者にとっても良い習熟問題だなというふうに思いました。感想です。

(選定委員長) ありがとうございます。また教育委員会での報告の中に入れさせていただきたいと思います。ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 最後、感想なのですが、本当に算数の教科書の部分については期待を持って拝見した部分でした。プログラミングの話は今のとおりなのですが、もう少し広い視野で見たときに、小中高まで考えたときに、小学校のプログラミングの授業はプログラミング的思考を身に付けるということが目的になっているわけですが、片や中学校を見てみると、技術で学ぶプログラミングは非常に高度なものに変わりましたし、さらに高校にいくと情報、そして情報Ⅱなどを見ていると、その仕事をしている人間から見ても本当に高度だなと思うことを学ぶようになっている中で、そこへのつながりという中では小学校のプログラミング授業もしっかりとそこにつながるために重視して、ぜひ金沢はそういった独自の教材で力を入れている市でもありますし、そういう形でしっかりとプログラミングの授業をやっていただけるとうれしいなというふうに、一保護者、そしてその仕事に就いている者として考えております。どうぞよろしくお願ひします。

あと、おっと思ったところで学校図書の6年生の教科書なのですが、104ページに、これは算数を使ってというのはかなり無理やり感がある扱いもあるのですが、「デジタル・シティズンシップ」というキーワードが唯一、いろいろな教科書の中でもここは初めて出てきたのかなと思っています。この部分は金沢市PTA協議会でも力を入れて取り組んでいる部分なのですが、そういうデジタル機器があつて当たり前、上手に使っていけるようにというふうに考えていることを、この教科の中で扱っているのはちょっと面白いなというふうに注目していたところでした。ぜひこの教科の中でも、先ほど言ったつながりの中でいい形でやっていただけるとうれしいなと思います。感想でした。

(選定委員長) また報告の中に入れさせていただきたいと思います。他、いかがでしょうか。では、確認させていただきます。調査委員会の報告に対して、ただ今審査した課題について修正等のご意見がございましたので、先ほどのご意見を加味させていただきながら修正させていただきます。また市民からの意見として、学習内容や系統性、そして挿絵や写真などのご意見がございました。そういう意見に傾聴して、算数における教科書採択の答申を作成したいと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。ご了解を頂いたということで。そして 6 者ありますので、特に評価が高い 3 者を教育委員会の方に選定委員会として報告したいのですが、先ほどご意見の多かった部分も踏まえまして、東京書籍は候補として挙げられるかと思うのですが、あと 2 者については結構横並びですが、先ほどのご意見等も踏まえて、いつものように各学校で調査していただいているご意見の、いい点でのご指摘の意見数も反映させていただくと、大日本図書と学校図書の方が、先程の審議の中で頂いた評価もあったかなと思っておりますので、ちょっと横並びでどれかを選択するとすれば、東京書籍、大日本図書、学校図書としてはどうかなと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) そうしましたら、他者と比べて特に評価が高かった発行者は、東京書籍、大日本図書、学校図書ということで 3 者を教育委員会に報告させていただきます。ありがとうございます。そうしましたら、ここで 15 分まで休憩とさせていただきます。

<休憩>

④英語

<調査委員入室>

(選定委員長) では、英語になります。調査委員長からの報告です。他種目より調査項目が 1 つ多くなっておりますので、よろしくお願ひいたします。では、調査委員長、よろしくお願ひします。

(英語調査委員長) ただ今より、英語の教科書の調査結果について報告いたします。英語については、6 者について調査いたしました。それぞれの特色を簡単にご説明いたします。

東京書籍については、調査研究項目 5、「現代的な諸課題への対応や各教科との関連に配慮が見られる」ことです。6 年生の 12 ページをご覧ください。世界の子どもたちの大切なものについて動画で紹介する際、ウガンダの、水が大切である現状や日本の支援により病院が建設されたことを紹介するなど、社会科とも関連させ、考える場を設けています。また 60 ページでは、単元学習として生き物が直面する問題について、ごみ問題など 4 年の社会科の既習を生かしながら児童自身ができることを考えて話し合うなど、現代的な諸課題への対応について触れる配慮が見られます。

開隆堂については、調査研究項目 4、伝統と文化を尊重する態度を養うための内容となっていることです。各単元末に記載されている「Around the World」では、5 年生の 32、42 ページのように、世界各国の伝統や文化に関する内容や授業の様子などを全ての動画で確認できるよう工夫されています。また 78 ページにあるように、フードロス削減にどのように取り組んでいるかなど、SDGs のテーマを絡めた道徳性を養う内容となる工夫も見られています。

三省堂については、調査研究項目 3、児童が自主的・自発的に学習できるよう配慮されていることです。5 年生の「Unit 1」、10、11 ページをご覧ください。写真を中心に学ぶ内容を表していますが、これは単元ではなく学期ごとの学習課題としています。「HOP」として、既習を使って表現活動を行い、これから学ぶ内容の見通しを持ちます。「STEP」として、誕生日や好きな教科などを伝え合う二つの Lesson 1、Lesson 2 の単元学習を経て、「JUMP」として、学んだ内容を活用し、学期ごとの学習活動を振り返る構成となっていま

す。これらは5・6年全て同じ構成で配置されています。

教育出版については、調査研究項目4、伝統と文化を尊重する態度を養う内容となっていることです。5年生の教科書には41、87ページに、「Let's Look at the World」として、小学校やアメリカの手話を紹介しています。6年生の教科書では41ページと98ページに、外来語や絶滅の恐れのある世界の動物を紹介しています。また、どの単元にも多くの国の子どもたちが登場し、表紙に描かれた車椅子の登場人物や、5年生の教科書52、53ページの導入見開きのページには障害のある人、お年寄りなどが描かれ、異文化理解でなく道徳性なども養う内容となる工夫も見られます。

光村図書については、調査研究項目6、学年相互間の関連が図られ、系統的に構成・配列されていることです。5年生の12、13ページでは3・4年生で学習した表現をクイズ形式で既習を確認しています。6年生の25、27ページの「Let's Try!」では、これまで学習した表現を活用させるよう工夫されています。また、6年生の74、75ページのように、中学校での部活動や就きたい職業を併せて自分の将来について話す構成とし、108ページのように英語の学び方について端的に分かりやすく表記し、中学校の英語科や学校生活への円滑な接続ができるよう工夫されています。

啓林館については、調査研究項目4、伝統と文化を尊重する態度、道徳性を養うための内容となっていることです。各単元末に記載されている「Did you know?」では、5年生の20ページ、世界の学校生活や、30ページ、誕生日にすること、そして54ページの日本語と英語の違いや、6年生の22ページ、ジェスチャーの違いに触れるなど、文化に関する内容が動画でも確認できるよう工夫されています。5年生の102ページのように「Did you know? プラス」で各国の話題になっている世界の諸問題や、同じように6年生の48ページ、生活をより良くする工夫をクイズ形式で取り上げるなど、道徳性を養う工夫も見られます。

以上で各者の優れた特色のご説明を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では委員の皆さん、ご質問をお願いいたします。

(選定委員) 最初に、今回英語はデジタルコンテンツが対象になってくるということで、調査されたときと状況が変わってないかどうかを先に確認したいのですが、三省堂の10番の評価項目について、割といい方向での評価になっているのかなと思うのですが、私が見たときからなのですが、動画コンテンツが準備中になっていて見られないのですよね。前年度を見てくださいといつても、前年度も体験版になっていて、あまりたくさん見られなくて、充実しているかどうかちょっと判断できない感じだったのですが、ご覧になられたときは公開されていて見られたから、こういう形になったのですか。

(英語調査委員長) 今現在も見られます。『CROWN Jr』ですよね。

(選定委員) 例えば6年生の81ページ、右の例えば二次元コードのところから、「My Dream」というのを、再生している動画を見ようと思って見られますか。

(英語調査委員長) これは二次元コードのことですよね。

(選定委員) 今、この10番のところで見ていくものというのは。

(学校指導課長) 調査研究項目の10番は二次元コードではなくて、デジタル教科書ですので、二次元コードからは見られないのです。

(選定委員) そうなのですね。私たちが評価する上ではどこから入って見ればよかったです。

(事務局) 委員の方には、お配りさせていただいた URL やパスワードが書いてある一覧の方からお入りいただくことができまして、今、前の画面の方でお見せいたします。

(学校指導課長) これですね。教科書に載っているのは二次元コードであって、デジタル教科書は先ほどの URL から入っていくのです。

(選定委員) そうしたら、教科書の使われ方として子どもたちはどのような授業をデジタルコンテンツで？

(学校指導課長) これが教科書として使われるということです。

(選定委員) 見るのは端末上で？

(学校指導課長) はい、端末上で、学習者用のデジタル教科書ということで。そこには音声なども入って、出てきます。

(英語調査委員長) はい。

(選定委員長) そういうのはネイティブが話してくれますよね。

(英語調査委員長) はい、そうです。

(学校指導課長) 紙の教科書と同時に、これも子どもたちの教科書として扱われるということになります。

(英語調査委員長) 觸ったときに指マークのところを押すと動きます。

<動画を確認>

(選定委員) 質問としては勘違いしていたということなので、次に進めてください。

(選定委員長) よろしいですか。大体雰囲気は、委員の皆さんに見ていただいて。他、ご質問ございましたら。

私の方から。辞書が分かれたりするのですが、本でも調べられるとは思うのですが、その辺の使いやすさとか、使うのかどうかも含めて。あと、教科書の後ろにカードのようなものを切って使えるのが結構ありますよね。その辺で何か差があるのかどうか、ご説明をお願いします。

(英語調査委員長) 辞書とカードですね。辞書の方なのですが、東京書籍、三省堂、光村図書の方はそれぞれ付属で付いています。それから開隆堂も付いています。教育出版と啓林館は、付属としてはないのですが、必ず教科書の後ろのあたりに単語を端的に項目として表す「Dictionary」が付いています。全て 4 線が必ず入っていて、書くことがすぐできるように、写すことができるようという配慮があります。中には各学年に 1 冊ずつ付いているものもあれば、1 冊だけ、5・6 年生を一つの固まりとして、6 年生になっても 5 年生で使った「Dictionary」をもう一回使ってという場合もあります。東京書籍の方は 1 冊だけ配布されて、6 年生でも同じものを使う形になっております。

もう一つのご質問ですが、カードについては割とどの発行者も、カードを切って使えるようになっておりまし、使い勝手というとなかなか難しいところもあるのですが、カードの中には単語カードや、自己紹介のときに一つの作品としてカードになっていくような特徴が見られています。今のカードは単語カードの話ですかね。東京書籍をご覧ください。

アルファベットカードというのが一番基本的になってきますが、そういうカードから始まって、このような表現のカードにはすぐに切れるようにミシン目が付いています。これは割と他の発行者でも見られて、そんなに差はない特徴でした。

(選定委員長) 差はないですか。辞書の方も、金沢の学習スタイルからいってあまり差はないですか。どこかの発行者の方が使いやすいというのはありますか。辞書がこういった分冊になっているとか。

(英語調査委員長) 考え方だとは思いますが、私は、先生方に使っていただくときは 2 冊にするとほとんど同じで、ちらっとだけ 6 年生で新しく学習する、中学校を意識したところが増えている程度ですので、1 冊でまとめてあった方が詳しく調べるときは便利だと思います。なので、別冊がいいかなと思ったときに、東京書籍などはいいなと思います。

(選定委員長) 使いやすいということでしょうか。

(英語調査委員長) そうですね。

(選定委員長) 分かりました。ありがとうございます。他の委員の皆さん、質問はありませんか。

(選定委員) 調査項目の 9、金沢型学習スタイルについてなのですが、課題の設定といいますか、英語はコミュニケーションがとても大切だと思いますので、例えば「紹介しよう」ではなく「紹介し合おう」とか、「伝えよう」ではなく「伝え合おう」というような、お互いにという相互の交流、グループ活動等が大切だと思うのですが、その点、各者どうだったか教えてください。

(英語調査委員長) 東京書籍は「Watch and Think」というコーナーがあって、そこで考えを持つ。そして「Your Turn」で伝え合う構成、「あなたの番で伝えてください」という構成になっています。最後、先ほどあった「Dictionary」の方で、CAN-DO リストで振り返っていくという形を取っています。

もう一つ、三省堂は伝え合う活動が大変豊富でして、「Let's Talk」「Let's play」「Let's try」の流れで伝え合いをして、そして、CAN-DO を 5 領域として、しっかりと踏まえて振り返るという形、この 2 者が特徴的かなと思いました。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定副委員長) 調査研究項目でいうと 5 かなと思うのですが、内容のことで、使える単語が限られていて難しいことなのかもしれませんけど、社会科とか日本語との違い、国語との関連というのはどの発行者も見られるのではないかと思うのですけれども、科学や環境のような、そういう内容としての広がりがあるようなところがあれば教えてください。

(英語調査委員長) 科学ではないかもしれませんのが、生物学的なことでもよろしいですか。東京書籍では 6 年生の 60 ページ、「生き物のためにできること」として、現代的な諸課題という捉えをして項目 5 に書かせていただきました。

他にも、光村図書では、6 年生の「Unit 5」で「We live Together」、共に生きるという授業の中で、やはり同じように単元として諸課題を意識しながら、生き物との関連が図られていました。

あとは、啓林館ではちらっとだけ、「Did you know? プラス」で世界の問題、ウミガメなどを例に挙げて、ごみ問題なども取り上げていたり、あとは、どの発行者も SDGs のマーカなどを載せて、SDGs との関連を表しているところもあります。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 調査報告書を見させていただくと、調査項目 1、2、3 は授業づくりという観点なのかなと思うのですが、この観点で言うと三省堂が他者と比べて高い評価になっていると感じました。この辺の特に良さというのを教えていただければありがたいです。

(英語調査委員長) 最初に説明させていただきましたように、これまで割と Unit であったり、Lesson であったり、全て単元ごとに刻んでいっているのですが、三省堂だけは、1 学期、2 学期、3 学期でまとめた学習活動として Unit を置き、その Unit を一つ一つ解決するために Lesson として単元があるというふうに、非常に子どもたちの視点で授業を進めていくところが際立っているなというふうに判断しました。そうなったときに、「HOP」「STEP」「JUMP」で一つ一つ、子どもたちの視点、学校生活の視点で無理なく進めているなということを感じています。

例えば構成なのですが、三省堂と、東京書籍について説明します。三省堂の 5 年生では、「自己紹介をしよう」という 1 学期、2 学期は「あこがれの人を紹介しよう」、3 学期は「おすすめの場所を紹介しよう」というふうに大きな固まりを作っています。そこに単元を組み込ませてあります。6 年生も同じです。東京書籍も、一つ目「自分のことを伝え合おう」、二つ目「身近な地域のことを伝え合おう」、三つ目「日本のことを紹介しよう」というふうに固まりにしてあります。他の発行者は全部 Unit や Lesson で刻んである形になっています。このように、子どもも先生も大きなまとまりを意識させる工夫は、先ほど教えていただいた、項目 1、2、3 の授業づくりの充実が図られることにつながっていると感じました。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 他教科との関連の良さみたいな項目がある中で、これは大体ほとんど SDGs 関連なのかなというのをお聞かせ願いたい。というのは、先ほどからいろいろ議論している中で、やはり英語というのは、もちろん語学的な充実もそうですけれども、プログラミングの中で英語が非常にがあるので、そういった要素での他教科との関連の良さみたいな評価項目がもしどこかの教科書であれば、お話を聞かせていただきたいと思いました。

(英語調査委員長) 他教科との関連というのはどの発行者も非常に意識されています。東京書籍の場合は、県の名前とか、地図記号とか、世界のつながりという、社会科のイメージが強いなと思いました。

SDGs に関しては、啓林館では SDGs マークを常に明記して、SDGs を意識した内容であるとアピールされていると思います。

教育出版では、例えば 5 年の 67 ページは、石川県の輪島塗や兼六園を明記したりして、これは金沢型学習スタイル、ふるさと学習にちょっと似ているかもしれません、そういう社会科との関連を表しているという感じです。

都道府県の地図は他にも三省堂にもありましたし、英語ですから世界と日本ということで地図は結構出ているという印象がありました。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 冒頭勘違いしていて、デジタル教科書の見るポイントというのが分かっていなくてすみませんでした。改めて頂いた資料から一通りデジタル教科書を見させていただいて、これは今、全ページがあるわけではないではないですか。そもそもこういう状態で完成して使えるものがこのボリュームなのか、それとも現状まだ準備状況がこうだから、デジタル化されるところですよというふうに見えているのか、どちらになるのですか。

(選定委員長) 事務局、よろしくお願ひします。

(学校指導課長) 紙の教科書と同じような形態です。

(選定委員) 評価されたときの見方としては全部そろっていなかつたと思うのですが、出来上がっててくるものとしては、例えばデジタル化されて学びのプラスになる部分というのは、特に英語だと実際に動画を見ながら発音を聞けるとかそういう部分だと思うのですが、その見えるものというのは、おおむね教科書に載っているものの二次元コードで見たものが載ってくるというふうに理解されたという認識で合っていますか。

(英語調査委員長) やはりその中で秀でているのは東京書籍と三省堂だと思いました。まず、画面には、東京書籍と三省堂を開いていただいているのですが、ぱっと開いたときに、教科書の内容について、もちろん二次元コードからも入れるのですが、こういうふうに再生マークがいろいろなところにあるのです。デジタル教科書で再生するとこの子たちがしゃべり始めます。本当に動く教科書みたいなイメージが東京書籍と三省堂は非常に仕上がってきました。他の発行者ももちろん動くのですが、先ほどの二次元コードのところも輪切りのような感じで、動画や音声だけというのもありました。そういう違いが見られました。

(選定委員) 今、デジタル版を見ていると、この教科書が単純に画像として電子化されたものにリンクが貼られているというよりは、そこに書き込みができたり、そういった取り組みもされているかと思うのですが、実際授業で使うポイントとして、今挙げていただいた、直接そこを見ながら、クリックしたらすぐ動画が見られるという、そういう早く進んでいいけるということ以外に、それ以外の機能の評価という点について今回含まれているのか、現実的に使う部分の範囲での評価がなされているのでしょうか。

というのは、見た感じ、これからまだ先が長そうだなというか、使いやすくなるには相当慣れていかないといけなさそうだなという印象を持ちました。現場で使う前提の部分を評価されたのだと思うのですが、そのあたりはどういった部分で見ていらっしゃったのか。

(英語調査委員長) 自分が見たときに思ったのは、電子黒板の画像入りというイメージがあったのです。昔、電子黒板といったら左側にツールが出てきて、色を変えて、鉛筆を持ってきてそこに書き込むことができるのですが、これだったら教科書に直接鉛筆で書き込むより、消したり何回も書いたりするそういう電子黒板の部分と、先ほどお伝えした、再生でいろいろな場面を、目で見て聞くことができるので、テレビを見ているような感覚になるように今後バランスを取っていく段階なのかもしれません。取りあえず電子黒板分とデジタル教科書分が一つの画面上に出てきたというふうに捉えています。

(選定委員) 分かりました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。では、調査委員長、ありがとうございました。ご退室いただいて結構です。

<調査委員退室>

(選定委員長) それでは、事務局から当該種目の資料B、C、Dをお願いいたします。

(学校指導課長) それでは資料Bの12ページをご覧ください。まず東京書籍については、項目1、2、4、5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、意見の総数も最も多くなっております。続きまして開隆堂です。項目3で全発行者の中で最も多くの意見

が挙げられており、項目 4 は 2 番目、項目 1 は 3 番目に多くなっております。意見の総数については東京書籍に次いで 2 番目に多くなっております。三省堂です。項目 2 と項目 3 で全発行者の中で 2 番目に多くの意見が挙げられており、項目 4 では 3 番目に多くなっております。意見の総数につきましては全発行者の中で 3 番目になります。続きまして教育出版です。項目 3 で全発行者の中で 2 番目に多くの意見が挙げられており、項目 5 では 3 番目に多くなっております。光村図書です。項目 2 で全発行者の中で 2 番目に多くの意見が挙げられており、項目 4 では 3 番目に多くなっております。啓林館です。項目 1 と項目 5 で全発行者の中で 2 番目に多くの意見が挙げられております。

続きまして、資料 C の 2 ページをご覧ください。教科書展示会に寄せられた市民の意見のまとめです。右側の上段をご覧ください。常設展示では「英単語や文章」「学習の系統性」についてのご意見がありました。なお、移動展示では意見等はございませんでした。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、英語について審議したいと思います。修正のご意見等ありましたらお願いします。

(学校指導課長) 先ほどから学習者用のデジタル教科書の話が入っていますが、もう一度確認しますけれども、今回の教科書採択については、紙の教科書が決定する一つの行為であって、調査対象は紙の教科書であるというのがまず基本です。一方で、令和 6 年度以降、英語の学習者用デジタル教科書を紙の教科書と併せて提供する予定であります。令和 5 年度の小学校英語の教科書採択については、「小学校英語のデジタル教科書を調査し、考慮の一事項とすることができること」という通知がありましたので、今回の調査研究委員会の項目の 10 番に入れてあるということになります。

(選定委員長) ありがとうございます。そういうことで、将来的にということでございます。ご意見等ございましたら。修正などのご意見がなければ感想でも結構なのですが、何かコメントを頂ければありがたいと思います。皆さん�が調査された中でのご意見をお願いいたします。

(選定委員) 調査報告書の A のところで言うと、記載内容からは、東京書籍と三省堂の評価が高いのかなというふうに見たのですが、B の項目を見たときに優れているという意見の数が東京書籍と三省堂は同じぐらいのかなと思ったら、結構差が開いていて、何なら三省堂は開隆堂よりも少なく、「あれっ?」という感じでした。この種目だけはばらつきといいますか、もしかすると評価しにくかったのか、点数がどういうふうに出てきているのかがちょっと分からなかつたので、そこだけちょっと気になりました。

(選定委員長) どうなのでしょうかね。各学校の捉え方とか教え方とか、教科的には新しいといえば新しいので、いろいろ捉え方が違う部分があるのかもしれません。その辺、学校の校長先生から何かお聞かせいただければと思います。

(選定委員) いつも言うのですが、われわれは今、東京書籍の教科書を使って授業をしているので、慣れているというか、どうしても学校としてはそういう部分が出てくると思います。今までの教え方があまりにも変わってしまうとびっくりというところもあると思います。

先ほどおっしゃっていただいたとおり、あえて私が質問したのは、三省堂がすごく評価が高かったというところ、特に授業づくりの点においてすごく評価が高かったというところが非常に気になりました、あえて質問させていただいたところです。ですから、私も全く同意見でして、どうして研究委員会の結果がこんな形になっているのかなというふうに思いました。

一方で東京書籍を見ると、私としては逆に書き込みなどがすごい多いものですから、正

直に言って使いにくい面もあるのかなと思いました。三省堂の方が確かに使いやすいのかもしれないなと思って見させていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。その辺のニュアンスも、教育委員会に報告するときに少しコメントとして報告できればいいかなと思います。他に何か、修正の意見でなくとも、ご感想で結構ですけれども。

(選定委員) もう 1 点いいですか。今の話に関連して、金沢は英語を低学年から行っているのですね。そのつながりという点では、5・6 年生だけを見るというのはちょっと違うのかなと思っておりまして、学習の仕方が大きく変わってしまうと現場としては困ってしまうと思うので、その辺も特に鑑みていただければありがたいと思っています。これはあくまでも感想です。

(選定委員) 感想です。なるほどなと思ったことは、先ほどの委員長の説明にありましたように、三省堂の教科書はすごく大きなくくりで子どもたちの資質・能力を育てるような仕組みになっているということで、きっと子どもたちの思いや願いも引き出しながら学べるのだろうなということも思いました。あと、見た目のことなのですが、すっきりとしていて分かりやすいというのも三省堂の特徴かなということを感じました。また、自分で調べたときには、三省堂はすごくグローバルな視点があるという印象を持ちました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、感想でもよろしいですけど、いかがでしょうか。

(選定委員) 今のデジタル教科書の話も伺いながら変化の年だなと思いました。ただ、教科書のつくりとして、かなり積極的に動画コンテンツを深掘りしていくことを教科書でやるという構造になりつつあるのかなというふうに理解しました。デジタル教科書としてどうかと言われると、結局のところ多分ビュワーのところのつくり込みが時代に追いついていないというのが各者あるような印象で、まだまだ実運用に行くには何年かかるのではないかという気はしながらも、直前に言ったデジタルコンテンツ、動画を見て、そのストーリーを直接耳で聞いてから中を学んでいくというところは、既にそういうふうになっているのだというふうに見たときに、次に動画の見やすさというところは既に最低限完成させてきている部分かなと思って見ていました。

その中で東京書籍は、他教科もそうなのですが、動画のプレーヤー部分が、子どもたちが操作しやすいようにちゃんとつくり込んであったり、そのあたりの見やすさに配慮されているところが印象が良かったです。内容については当然教科書と関連しているところもあるのですが、そういった部分が今後評価対象になっていくところでの最初のポイントになってくるのかなと感じました。

あと、東京書籍の教科書は、そもそも全体を通して話題も含めて多様だなと思いました。キャラクターも、僕らは中学からでしたけど、中学時代に勉強した英語の教科書と比べたら、英米ではないところの英語話者の人たちがたくさん出てきますし、どこかでクロコダイルステーキを食べておいしかったとか、そんな話が本当にいろいろな国のいろいろなことが直接的な話題として出てくるところが、非常に楽しみながら授業を受けられるのではないかと思って、非常にいい印象を受けました。感想です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 今話題に上っている三省堂と東京書籍の 2 冊を比べながら見させてもらっていたのですが、東京書籍の方は本当に情報量が多いというか、書くスペースも大変多いなと思うのですけれども、その反面、こういう力を付けたいな、基礎・基本を付けたい

なという意図があちこちに見られていて、知識であったり、文字であったり、技能面を習得させたいというものが強く表れているなという印象を受けました。三省堂については本当に柔らかい教科書のつくりで、子どもたちが興味・関心を持って 1 年間学び続けられるような教科書であるという感じを受けまして、どちらがということは本当に難しいなというのが感想です。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。それでは、ご感想中心で特に修正はございませんでしたので、確認させていただきます。英語に関して、報告書 A の内容については特に修正がございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民の方の例え「英単語や文章」「学習の系統性」等の意見を傾聴しまして、英語の教科書の採択の答申を作成したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、お認めいただいたということで、6 者ありますので、選定委員会として特に評価が高い発行者を 3 者ほど選びたいのですが、全体的な評価からしますと、先ほどご意見をたくさん出していただいた者も含めますと、東京書籍、三省堂、あと挙げるしたら光村図書あたりになろうかと思うのですが、いかがでしょうか。その 3 者でよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) それでは、東京書籍、三省堂、光村図書ということで教育委員会には報告したいと思います。ありがとうございました。

続いて、「音楽」になります。「音楽」の審議を行いたいと思います。

⑤音楽

<調査委員入室>

(選定委員長) それでは「音楽」の審査に入りたいと思います。では、調査委員長の方から報告をよろしくお願ひいたします。

(音楽調査委員長) それでは、音楽科の教科書の調査結果について報告します。音楽科では、2 者の発行者について調査いたしました。

1 点目は教育出版です。評価の高かった点を 3 点挙げさせていただきます。

1 点目は、調査項目 5 番で、全学年の巻末に「Short Time Learning」として英語の歌が豊富に掲載されており、英語教育と関連して学習できるよう配慮されていることです。1 年生の教科書 71 ページを例にしたいと思います。こちらの方では、1 年生からでも親しみやすい 3 曲が紹介されています。続いて 6 年生の 74 ページ、6 年生の方では、高学年でも取り組みがいのあるミュージカルの曲が取り上げられております。

2 点目は、調査項目の 7 番で、全ての共通教材曲に見開きの写真や挿絵が詳細に美しく掲載されており、歌や音楽が表す情景が想像しやすくなるよう工夫されていることです。まず 3 年生の 40 ページです。富士山の全景の写真が、歌詞にある「四方の山々」というところとともに 3 ページの見開きで掲載されております。さらに次のページにも富士山のさまざまな姿を紹介し、教材への思いを持てるよう工夫されております。続いて 4 年生の教科書から、10 ページになります。こちらは満開の桜の風景が同じく 3 ページの見開きで、さらに次のページにはその他の桜の風景が紹介され、教材曲の情景を想像して歌うができるように工夫されております。

3点目について、調査項目9番で、巻末に音楽を表すいろいろな言葉が発達段階に合わせて掲載され、自由記述欄も設けられており、言語活動に活用できるよう構成されていることです。6年生の教科書を例に説明します。80ページです。6年生の学習で活用できそうな言葉が一覧となっており、言語活動の際に参照・活用することができるような構成となっております。下の方には自由記述欄が設けられております。

2者目の教育芸術社に移ります。こちらも評価の高かった点を3点挙げさせていただきます。

1点目は、調査項目の1番で、学習の目標として題材名が設定され、題材の終わりに振り返りが設定されているため、課題解決に確実に迎えるよう工夫されていることです。4年生の教科書12ページを例に説明します。まず、「歌声のひびきを感じ取ろう」という題材が設定され、さらに題材の終わり、19ページの下の方になりますが、「歌声のいろいろなよさや特徴を感じ取ることができたかな」という振り返りが示されており、題材を通して課題解決に向かえるような工夫がされております。

2点目です。調査項目の2番で、全ての音楽づくりにおける学習活動が見開きの2ページで示されており、児童が見通しを持ちながら思考できるよう工夫されていることです。3年生の教科書の35ページを例に説明します。「手拍子でリズム」の教材で、まとまりのあるリズム曲を作る過程を段階的に学習していくよう、学習活動が見開きで示されています。同じく3年生の58ページ、「ロックミュージック」という表題になりますが、「ロックミュージック」では、決められた時間の中で拍やリズムにとらわれない自由なリズムの音楽で音色、強弱、音の重なりや、呼びかけと答えといった、音楽の要素を使って表現を工夫していくよう学習活動が分かりやすく示されております。

3点目は調査項目の9番です。「考える」「見つける」というコーナーが複数記載され、金沢型学習スタイル「自分で考える」「伝え合う」「深める」に対応するよう構成されていることです。このコーナーについては、ほぼ全ての教材において記載されております。調査項目1番でも参照しました4年生の教科書の12ページをご覧ください。「いいことありそう」という歌唱曲になりますが、「見つける」「歌う」「考える」という活動が右側のページの上の方に提示されております。さらにそれぞれキャラクターが登場していて、そのキャラクターによって取り組む視点が提示されております。授業の中で教科書を参照するなどして活用することで、金沢型学習スタイルの授業を実践する助けになると思われます。以上になります。

(選定委員長) ありがとうございます。では委員の皆さん、ご質問をお願いいたします。

2者しかございませんので、曲の数や、子どもが興味を持ちそうなところで違いとかその辺の差はありますか。

(音楽調査委員長) 扱っている曲数についてはそれほど差はないと思いますが、それぞれで共通している曲も数曲ございますし、またそれぞれの特色になるような曲も見られます。

(選定委員長) 子どもたちの興味からいえば、それぞれの者でいいところがあるという感じでしょうかね。

(音楽調査委員長) 子どもの興味からというところであれば、どちらもそれぞれに工夫がなされていると思われます。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 音楽的な見方・考え方を働かせながら学習をすると思うのですが、先ほど教育芸術社の方で「見つける」「考える」というところをご紹介されていたと思うのですが、教育出版の方でもそのような見方・考え方を働かせているような場面はありましたで

しょうか。教えてください。

(音楽調査委員長) 調査項目の2番に書いてあります「まなびナビ」というものがございます。教育出版の4年生の31ページに分かりやすいものがあるので紹介したいと思います。学習していく過程を地図のような形で表示しております、教育芸術社とはちょっと形が違いますけれども、このように学んでいくということをナビの形で、地図上でこういうふうに学んでいくよというのを示しているページがございます。ただ、全ての教材にという形ではなくて、一部の教材にこういうものが見られました。

(選定委員長) 他、いかがでしょうか。

(選定副委員長) 教育芸術社の方ですかね、調査研究項目の2で、ページのつくりが2ページ見開き構成になっていて、見通しを持ちながら思考できるのではないかということでした。内容よりは型というのですかね、イメージを大切にしているということですけど、内容によっては少しへページが多い方がいいこともあるかもしれないと思ったのですが、こういう2ページ構成にすることで無理は生じていないというご判断でしょうか。

(音楽調査委員長) 大体の教材が1~2ページで構成されているものが多いのですが、音楽づくりについては全て2ページの構成として、見開きで学習内容が分かるように、またどんなふうに展開していったらいいか、学んでいたらいいかということが分かるようなつくりになっているということでございます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定委員) 教育出版の全学年の巻末に「Short Time Learning」という英語の歌が記載されていて、僕もとてもいいなと思っているのですが、これは授業において実際に歌う言葉でやっているということですかね。僕みたいな人間はこれを見てもどんな歌なのかなと思ってしまうので、しっかり歌うということまで実際現場でやられているととてもいいなと思ったのですが、その辺はいかがなのかなと思いました。

(音楽調査委員長) 申し訳ありません。教育出版の教科書のこの部分を実際どのように活用しているかというところまでは調査委員会の方でも想像することしかできなくて、実際使えそうかというところでいうと半々という協議結果でした。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定委員) 先ほど、教育出版の方が写真でものすごくイメージを膨らませることができますというご説明だったと思うのですが、例えば4年生の教科書ですと36ページの「もみじ」は、ものすごく紅葉している日本の山があると思います。同じ「もみじ」の教育芸術社だと、47ページだけを見て、これではと思ったのですが、4ページにわたっているということでこちらにもすごく美しい紅葉が載っていました。

(選定委員長) よろしいですか。

(選定委員) 途中で聞き漏らしてしまっていたら申し訳ないのですが、教育芸術社の調査研究項目3番のところで、「デジタル教材で選択できるよう示されており、試行錯誤を繰り返し行えるよう配慮されている」という記述がありますが、ここは具体的にどこのことだったか、教えていただいてもよろしいでしょうか。

(音楽調査委員長) すみません。説明の中ではここは飛ばしていたところではあるので

すが、ただ、それぞれの発行者の二次元コードから閲覧することができるものを比較、協議してみたのですが、2者ともすごく優れていて、特に教育芸術社の場合には、音楽づくりにおいてデジタル教材を全て使えるようにというふうに整理されておりました。

(選定委員) 今、映していただいているところですかね。教科書では。

(音楽調査委員長) 25 ページです。

(選定委員) 確認してみます。

(選定委員長) よろしいですか。他、いかがですか。

では、もう 1 点だけ。教育出版の 9 番目の項目ですけれども、「音楽を表すいろいろな言葉」が結構書かれているということですが、教育芸術社の方にはそういうものはあまりないのですかね、比較して。教育出版の方はいつも最後あたりに「音楽を表すいろいろな言葉」でリストになっていると思うのですが、教育芸術社の方はそういうまとめ方はしていないということでしょうかね。

(音楽調査委員長) 教育芸術社の方は、それぞれの学年で出てきた音楽のいろいろな用語や記号をまとめたページはございますが、今のような音楽を表す言葉についてはページは割かれていません。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

それでは、ありがとうございました。調査委員長、ご退出いただいて結構です。

<調査委員退室>

(選定委員長) それでは、事務局から当該種目の資料の B、C、D について報告をお願いします。

(学校指導課長) それでは資料 B の 8 ページをご覧ください。教育出版についてです。項目 3 と項目 5 で教育芸術社より多くの意見が挙げられており、項目 1 は教育芸術社と同数となっております。意見の総数につきましては、教育芸術者よりも多くの意見が挙げられています。教育芸術社です。項目 2 と項目 4 で教育出版より多くの意見が挙げられており、項目 1 は教育出版と同数となっております。

続いて、資料 C の 2 ページです。教科書展示会に寄せられた市民の意見のまとめです。左側の中段をご覧ください。市民からは、「教材」についてご意見がありました。なお、移動展示については、意見がありませんでした。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは審議に入りたいと思います。委員の皆さんから修正等の意見も含めましてご意見をお願いいたします。

(選定委員) 音楽の教科書を見させてもらって、どちらも基本的に評価が高いのかなという印象なのですが、これは教科書なので、授業の中で、例えば僕が大人になったときに、「金沢市民憲章だったんだ」とか、「『金沢市民の歌』ってあるんだよね」とか、意外と知らないことがあつたり、「金沢市民の歌」ぐらい教えたいとか、また郷土愛とか地元愛となったときに、地元のアーティスト、ミュージシャンとか、自衛隊の鶴真衣さんなども金沢市出身とか、Perfume の中田ヤスタカさんとか、そんな人がぽんぽんと出てくると、金沢のアーティストから音楽に興味を示すようなきっかけになればなと思ったのが感想です。

(選定委員長) ありがとうございます。授業の中で紹介している動画のものはあまりそこまでは出てこないですかね。音楽の先生がやっておられるので。

(選定委員) 教科書の採択とは少し趣が違うかもしれませんけど、かなりやっています。特に地域とのつながりということで、例えばこの間やったのは獅子舞の笛であったり、校区に伝わる太鼓踊りというのがあるのですが、そういうものであったり、地域の音楽というか、いわゆる郷土愛、郷土の音楽というのはどこの地域でもいろいろ踊りが復活しています。小学校の校長としても地域愛は大事にしていきたいというところもありますので、ぜひそれは今後も進めていきたいなと思います。言わずもがな、「若い力」は誰でも踊れるので、そういう観点からも地域についてはかなりやっているなというふうには思いますが、今ほどもあったように、郷土出身の方であったり、郷土の優れたものについては今後も取り入れていきたいと考えています。

(選定委員) 僕も「四十万じょんがら」などは YouTube で残していたりするのですが、金沢市民憲章や「市民の歌」などあまり聞いたことがないなという人もいると思います。校歌や「君が代」も含めてそうですけれども、何か一つのきっかけになるような教育ができたらなと思っています。意見です。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。修正等の意見でなくとも感想も含めまして。

ちょっと私の方で最後質問させていただいたのは、音楽は感性の教育ですので、言葉で表現しにくいところはあるのですが、言葉で表現しないと今度はコミュニケーションを深めていけないので、音楽で実際感じるところがメインでいいのですが、交流とかお互いに共感したりするには、やはり言葉が大事だと思います。また言葉にすると、そういう感じで曲を聴き直してみると可能なので、このままの表現でいいかなと思うのですが、教育出版の方の「音楽を表すいろいろな言葉」というのは高く評価したいなというふうに感じております。評価としてはそういう意見があったという、私自身の評価になりますけれども、その辺が大事かなと思っています。

私自身も、大学院等で音楽教員を目指す子と研究をしていて、言葉で表現しにくいのではまず色で表してから、それを言葉に直してということをやっていて、やはり事例があると子どもたちも非常に表現しやすいことがあります。これから感じることを表現していくという意味では、いろいろなことにつながると思いますので、大事かなと思っております。ちょっと感想を含めてということです。

他、いかがでしょうか。

(選定委員) 今の委員長のお話を伺いしていて、母校であつたり前任校の音楽室を思い浮かべると、確かに音楽で使える言葉というものを担当の先生は掲示していたなと思い起こします。ということは、子どもたちにはそういう語彙力や音楽で使う言葉というのは身近ではないので、ああいうふうに掲示してあったのだろうなというふうに今思い起しますと、確かに項目 9 についてはこの教科書の特色なのだなというふうに改めて思いますので、委員長がおっしゃったようなことは非常に大切なことだなというふうに感じました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。特にないようでしたら、まとめさせていただきます。確認させていただきます。音楽に関しましては、報告書への対応について特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民の意見では「教材」についての意見がございましたが、そういうものに傾聴して、音楽における教科書採択の答申を作成したいと思います。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。では、2 者のため、特に評価が高かった発行者は伝えないことにいたします。ありがとうございました。

それでは次、「道徳」になります。

⑥道徳

<調査委員入室>

(選定委員長) そうしましたら、道徳調査委員長、よろしくお願ひいたします。

(道徳調査委員長) それでは「特別の教科 道徳」の教科書の調査結果について報告させていただきます。道徳は 6 者の発行者について調査いたしました。それぞれの特色について説明させていただきます。

まず、東京書籍についてです。6 年生の 190、191 ページをご覧ください。教材一覧表に関連するテーマや他教科との関連についての明記があります。また、同じく 6 年生の 109 ページをご覧ください。左下の鎖のマークの下に、関連する教科等が書かれています。関連するテーマや他教科とのつながりについて一覧表やマークを使って明記してあることで、児童は日常生活とつなげたり、考えを広げたりすることができ、また指導者は指導の際につながりや広がりを意識することができます。この教材一覧表やマークは全学年にあります。

次は、教育出版についてです。1 年生 18 ページをご覧ください。右下に、どんなことについて考えるのか、「マナビィ」というキャラクターの吹き出しの中に書かれています。これにより児童が今日の教材を通して何について学ぶのかが分かりやすくなるように、導入の工夫がされています。また、同じく 1 年生 4 ページをご覧ください。「どうとくではこんなまなびかたをするよ」のページで、道徳の学び方について分かりやすく示されています。これは全学年の教科書にあります。これらの明記により、何について、どのように学んでいけばよいのかが児童に分かりやすいようにとの工夫がされています。また、表紙の裏をご覧ください。4 番の「なかなかおり」や 10 番の「くまさんのおちやかい」のところに「たいけんマーク」があります。この「たいけんマーク」がある教材では、体験しながら考えるようになっており、各学年複数の体験的な学習がされるように配慮されています。

次は、光村図書についてです。表紙の絵や挿絵が優しい印象を受ける色使いやタッチで、児童にとって親しみやすいものであると感じました。また、写真も教材の文章を読んでいく中で知りたいと感じる部分で、知りたいことが分かるような写真が掲載されています。例えば 5 年生 58 ページをご覧ください。「ひとふみ十年」という教材の中に出てくるチングルマという高山植物の年輪の写真があります。別の東京書籍の 5 年生 87 ページと日本文教出版の 5 年生 40 ページをご覧ください。同じチングルマですが、年輪の様子が鮮明に分かるのが光村図書の写真です。続けて、光村図書 5 年生の 134 ページと東京書籍 5 年生の 120 ページをご覧ください。同じ「ブランコ乗りとピエロ」の教材です。光村図書の方が児童に考えさせたい場面で挿絵が使われていて、児童の思考の流れに合っているとの話が調査委員会の中で出ました。

続けて、日本文教出版について説明いたします。6 年生、表紙をめくった目次のページをご覧ください。「6 心づかいと思いやり」や「20 手品師」のところに握りこぶしのグーのマークが明記されています。これは、友達と話し合ったり、役を演じたりして考えをぐっと深めるように設定されている教材です。また、グーのマークの色の違いは、目次のいろいろなマークにあるように、自分のことについて考える話や人との関わりについてなど、テーマの違いによるものです。全学年のいろいろなテーマについて考え、議論したり、体験的な活動をしたりすることができるよう教材の設定がされてあります。

目次だけではなく、裏表紙をめくった学習内容一覧の「ぐっと深める」の欄や、26 ペー

ジをご覧ください。右下に人との関わりを考えるお話と分かる黄色のマークがあり、関連についてとても分かりやすくなるような工夫がされていました。また 65 ページをご覧ください。左下に「見つめよう・生かそう」で、これから生き方に生かしたいことを問う発問が必ず掲載されていて、付属のノートで自己の変容を振り返ることができるよう工夫され、またノートを見ることで本人や担任、保護者も変容や成長を実感できるような工夫がされているところが特徴です。

次に、光文書院について説明いたします。6 年生、表紙を開いた目次をご覧ください。SDGs について学ぶ教材があり、しかもどの教材で SDGs について学習するのかが目次を見ると分かるように、どの学年も配慮されています。同じく 6 年生 188 ページをご覧ください。そこに「現代的な課題」の欄があり、現代的な課題との教材等のつながりが分かるように配慮されています。同じく重点主題教材として命・いじめ・共生に関しても、188 ページの右上、マークを使って教材とのつながりについて分かりやすく示してあります。

次に、学研について説明いたします。6 年生 2 ページをご覧ください。「いじめ防止」や「情報モラル」「地球」など 11 のテーマに分けてあります。これは全学年同じテーマであり、発達段階に合わせた教材で学ぶことができるよう工夫されています。また、同じく 6 年生 166 ページをご覧ください。児童にとってなじみのある藤井聰太さん、池江璃花子さん、5 年生では内村航平さんや牧野富太郎さん等、子どもたちになじみのある人物を取り上げられて、興味を持って学習ができるよう工夫されています。

以上、各発行者について特に配慮されていると考える点を中心に報告させていただきました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さん、ご質問をお願いいたします。

(選定委員) 道徳のノートとして付属していたものは日本文教出版のみかなと思うのですが、他のところについてもきっとあるとは思うのです。ノートではないけれども、プリントとして。けれども、それよりもノートの方がより高く評価されているように感じるのですが、その理由がありましたら教えてください。

(道徳調査委員長) 他の発行者に関しても、学習の振り返りについてそれぞれの教材の最後にマークや 1 行の形で記入の欄はあるというふうに工夫はされております。その中でも日本文教出版は別冊としてノートがあります。調査委員会では、授業者が評価する際に、集めて丁寧に見取るということにも便利ではないかという話が出ましたし、また保護者に見てもらうために家庭へ持ち帰ることに関しても、別冊で薄いので持ち帰りやすいということがあります。今、通知簿渡しの時期ですが、懇談の際にもこのノートを懇談の資料として提出しているということも聞いております。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。ご質問ないでしょうか。いかがでしょうか。

では、私の方からノートに関連して、今、使っておられるので、従来のノートよりも今回の方が割とあっさりして、課題など書くことがもう、欄だけになっているようなところもあるのですが、その辺は何か議論はございましたでしょうか。

(道徳調査委員長) はい、ありました。前回のノートよりも発問についての記載が少なくなっている分、授業者として実際に児童の実態に応じた発問を工夫して授業をすることでき、発問に対して自分の考えを書きやすくなっているという意見が多数出ていました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定副委員長) 調査研究項目の 3 についてです。これから子どもたちそれぞれの生

き方について問う発問が掲載されているという、こういう発問について、どの教科書についても調査比較いただきました。この記述を見ますと、教材について、付属ノートであったり、あるいは視点が明記されていたりということですが、質的な差といいますか、そうした点については大体共通しているということでしょうか。金沢市の子どもたちが生き方について考えてほしいなと思っているのですが。

(道徳調査委員長) 発問については、どの発行者も工夫をされていました。その中でも日本文教出版の教科書に関しては、発問の絞り込みというか、細かい発問が少なかったです。これに関して調査委員の中で、先ほどのノートと通じますが、児童の実態に応じて発問を授業者として考えることができるので、授業としては組み立てやすいのではないかという意見が出ておりました。

(選定副委員長) 精選されているということですか。

(道徳調査委員長) はい。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定委員) この報告書を見ると日本文教出版が秀でているのかなというふうに見えるのですね。今ほどもあった発問についてですけれども、逆に言えば先生の力量に大きく影響されるのではないかという危惧もあると思います。道徳は学級担任がどのクラスでもやりますので、その差によって授業の内容に差があるのはちょっとどうかなというふうに一方では思うのですが、その辺のところについての議論はありましたか。

(道徳調査委員長) はい。おっしゃるように、若手の先生方もベテランも同じように授業を進める必要があるということについては意見が出ました。しかし、学年等で教材を読んで研究していく中で統一した発問を練り上げていくことができるのではないかということと、現在使っている教材がたくさんあるということで、これまでの教材の開発が積み重なっているのではないかという意見が出ておりました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 日本文教出版の道徳ノートはすごく使い勝手がいいのだろうなと思いますし、資料Bでは60人ぐらいの方がノートに関して肯定的な意見を挙げているので。ただ、ノートを書いたときに先生方が全部見て、しっかりフィードバックといいますか、僕も自分の子どものを見ていないよなと思ったのですが、逆にしっかり書いてあるときにフィードバックする先生方の負担などもあるような気がしたのですが、その辺はいかがですか。

(道徳調査委員長) ご配慮いただいてありがとうございます。評価をする上で、このノートが大変役立つツールとなっております。もちろん授業中の児童の実態、授業の初めと終わりの変容に関して、発言や様子などからも見取っておりますが、ノートで後で児童の変容を見取るということが評価に大変役立ちます。そんな点から、教師はそういうところはいとわないので、評価に役立つ点でこのノートは大変いいなという意見がたくさん出でております。

(選定委員長) 他、いかがでしょうか。ご質問よろしいでしょうか。

そうしましたら、調査委員長、ありがとうございました。ご退出してください。

<調査委員退室>

(選定委員長) それでは、事務局からの報告をお願いします。当該種目の資料1、2についてお願いいたします。

(学校指導課長) 資料Bの13ページをご覧ください。東京書籍からいきます。項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、項目2は2番目に多くの意見が挙げられています。意見の総数につきましては2番目に多くなっております。教育出版です。項目2で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。光村図書です。項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。項目1では2番目に多くなっております。意見の総数につきましては、2番目に多くなっております。日本文教出版です。項目1で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、項目5では2番目に多くなっております。意見の総数につきましては、全発行者の中で最も多くなっております。光文書院です。項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。項目3では2番目に多くなっております。学研についてです。項目4で全発行者の中で2番目に多くの意見が挙げられております。

続きまして、資料Cの2ページをご覧ください。教科書展示会に寄せられた市民の意見のまとめになります。右側の中段から3ページまで載せさせていただいております。市民からは「教材」や「道徳的価値」「多様性」等について、複数の発行者に対して多くのご意見が寄せられております。

同じく資料Cの5ページをご覧ください。移動展示におきましても常設展示と同様に、複数の発行者に対して多くの意見等が寄せられております。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。では、審議に移りたいと思います。資料Aについては、道徳は調査項目は7項目になっています。修正等を含めましてご意見をよろしくお願いいたします。もしご意見がなければご感想で結構なのですが、コメントを頂ければと思いますが。

(選定委員) 先ほど私が触れたように、資料Aと資料Bで大きく違うなという感じが見えるのですよね。今ほど事務局からご案内があったように、資料Bで比較してみると、実を言うとほとんど差はないのですよね。ところが資料Aでは、かなり日本文教出版が高く評価されているように見えます。もちろん悪いわけではないのですが、先ほど委員長からありましたけれども、私としては逆に課題がはっきりしないのは心配だなど。単級だったりどうするのだろうとか、学校現場では若い先生方が単級を持つことも当然ございますので、そうなった場合にやや心配な面があります。

先ほどのノートも、もちろん活用はすごく必要ですし、教員のことを考えたときになかなか厳しいと思うところです。もちろん振り返りは当然必要でして、駄目と言うつもりは一つもないのですが、その辺のところは少し冷静に吟味する必要性があるのではないかということを私は思います。

(選定委員長) ありがとうございます。必要ならまた調査委員長に入っていただきますが、ノートに関しては、そういった発問の工夫と言っておられますけど、日本文教出版の教科書においても発問はあるのでしょうかけれども、その辺の違いいか何か、発問的に子どもたちが問題意識を持ちやすい、考えやすいように特化している教科書はどれかなという。

(選定委員) 加えさせていただいてよろしいですか。

(選定委員長) はい、どうぞ。

(選定委員) 実は、Bの資料を見ると光村図書が非常に高いのですよね。ところが、資料Aを見ると光村図書は1項目から3項目までそれほど評価が高くないのです。この辺について大きな差があるというふうに見えまして、この辺の評価の低さがすごく気になるな

と。アンバランスさと言った方が正しいのでしょうか。気になるなと思っております。ですから、そちらの方を、もしかして必要であれば挙げた方がいいのかなというふうに私自身は思いますけれども、皆さんご意見を頂ければ。

(選定委員長) 光村図書の方で文言の修正はござりますか。光村図書の方でいいというような側面で、1~3 の項目全てではなくても、どこからでもいいのですけれども、何かござりますか。文言の表現が難しいようでしたら、光村図書に関しては1~3のいわゆる問題解決でもっと深めていくのに深めやすいというか、課題意識を高めやすいというご意見があつたという報告も可能でありますけれども、何か文言的にちょっと付け加えたらいい、評価を高くするような表現がありましたら、いかがですか。

(選定委員) 僕はキャリアコンサルタントをしていまして、学生の就職支援をしている立場からなのですが、教科書の裏表紙のところにキャリアという、現代的課題というのが大体の教科書に付いていまして、僕もこのキャリアについてどういった取り上げ方がされているのかを見ていたのです。教科書には書いてあるのですが、こちらの資料Bの項目にはキャリアについての課題をどこで見て取るのかが見つけることがなかなか困難だったのです。今、定住促進とか、できるだけ県内の雇用というのが叫ばれている中で、もちろん小学校からもキャリア教育をやっているわけなので、早ければ早いほどいいのかなと思いますので、そういう分かりやすい評価項目を入れてもいいのかなと思いまして、その辺を検討していただければと思います。

(選定委員長) 今から増やすと、調査されている分があるので、どこかに組み込むということは難しいと思いますが、金沢市の教育からいって、この道徳の項目にキャリア的な側面を入れるとすればどのあたりになりますかね。「児童の実情に即して」ぐらいになるのですかね。全部関わってくるといえば関わってくるとは思うのですが。あえて入れれば4番ぐらいになるのでしょうか。事務局、お願ひします。

(学校指導課長) 教科用図書調査委員会の研究項目は、石川県の採択方針に基づいて、そしてまた金沢市の採択方針に基づきまして作成されているものです。学校からのものにつきましては、4番目の項目のところで「金沢市や児童の実情に即し、問題解決的な学習を充実させるための構成や工夫がなされていること」には入ってきていると事務局としては捉えています。

(選定委員長) 4番目の項目ということになりますか。

(選定委員) 裏の一覧に書いてあるのと、できれば連動して評価した方が評価はしやすいのかなと思いましたので。それだけです。

(選定委員長) 特にそういう観点からどこかの者で特化しているような内容があるわけではないのですか。今後そういう項目があった方がいいという。選定というか採択に当たってはそういうことも考慮していただければというご意見があつたということでよろしいですかね。キャリア的な視点から教科書を見ていただければいいのではないかというご意見があつたというふうな。調査項目としては、ここに関わるけれどもということですね。今後も含めてということになろうかと思いますけれども。他、いかがでしょうか。

ちょっと戻るのですが、先ほどのご意見の項目1、2、3についての表現で、ちょっと時間を設けさせていただいて。何かご意見はありますか。

(選定委員) 今から多分絞られることになると思うのですが、そのときの要素として入れていただければ、それで結構かと思います。

(選定委員長) 分かりました。報告のときに、そういうご意見があつて、そういうところとしては光村図書の方がいいのではないかというご意見ですね。

(選定委員) 決して報告書 A を否定しているわけではなくて、先ほど言った資料 B の部分も勘案した方がよろしいのではないかという意味でご理解いただければと思います。

(選定委員長) そういう意味ですね。分かりました。他にありますか。

(選定副委員長) 今のお二人のご意見に私も同感なのですが、例えばですけれど、調査研究項目の 3 について、研究 B の資料ですと光村図書が日本文教出版よりも調査研究項目 3 の評価が高くて、光村図書が群を抜いているかなと思うのですが、例えば日本文教出版とは違う点から、つまり付属ノートとは違う振り返りの視点の良さということで、B のところで各学校の先生方のご意見が見て取れるかなと思います。そうした点を明記するということが一つの案かなと思いました。以上です。

(選定委員長) 言葉的に何か付け加えた方がいいですか。それとも口頭報告でよろしいですか。修正のところ、例えば光村図書の調査項目 3 のところ、各学校の部分は割といろいろ書かれているので、私としてもぱっと言葉が浮かばないのですが。

(選定委員) 私の意図としては、この文言そのものは変える必要性はないと思うのですが、他者と比べてもう少し評価されてもいいかなと思った次第です。

(選定委員長) 各学校での調査報告を踏まえて、この内容に関しては光村図書の評価が高いのではないかという選定委員会の委員の報告ですという形でよろしいでしょうか。それで構いませんか。ちょっと内容が多いというか、変に簡単な言葉にしてしまうとかえつて通じなくなるので、その辺のニュアンスは私の方で教育委員会の報告のところに載せさせていただいて、それに対して教育委員から質問があれば、内容によって詳しく説明させていただく形でいけるかなと思っております。

(学校指導課長) 資料 A は専門的な調査研究委員が 4 週間かけて作った報告書ですので、それを尊重しながらも、学校の方の研究報告書の中では先生方からそういう意見が多かつたということで、総合的に判断していただくような形で報告していただければと思います。

(選定委員長) ありがとうございます。そのようにさせていただければ助かります。他、いかがでしょうか。意見でなくてご感想でもいいかとは思うのですが。極力ここで挙がったことは報告をして、なかなか文面だけでは伝わらないので、私が説明する方が意外に伝わることもあるのかと思っているのですが。よろしいでしょうか。

では、確認させていただきます。報告書 A の内容については、いろいろご意見ありましたが、文言等の修正はありませんでしたけれども、ご報告の際には、委員の皆さまからありました内容を踏まえて報告させていただきたいと思います。さらに、先ほどの市民の意見からは「教材」とか「道徳的価値」とか「多様性」等についての意見があつたということに傾聴しまして、「特別の教科 道徳」における教科書採択の答申を作成しようと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。そうしましたら、6 者ございますので、特に評価が高い発行者を三つほど選びたいのですが、先ほどの各学校の調査を含めて、あと調査委員会の方の報告も受けまして、日本文教出版と光村図書は選べるのかなと思っておりま

す。

あと 1 者についてどうしたらしいかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。評価的な内容を見ますと、教育出版なのですが、書き込みが多いのは、各学校では東京書籍も多いというところですけれども。もう一度申しますと、光村図書、日本文教出版、そしてもう一つ、教育出版か東京書籍かなと思うのですが、これについてご意見はありますか。

調査委員会の方を尊重しますと教育出版、各学校の方も踏まえると東京書籍があり得るかなというところではございますが、どういたしましょうか。特にご意見がないようでしたら、調査委員会の方で 4 週間にわたって調査していただいている結果も尊重させていただいて、教育出版でいかがでしょうか。その 3 者でよろしいでしょうか。

確認させていただきますけれども、他者と比べて特に評価が高かった発行者は、教育出版、光村図書、日本文教出版ということで、3 者を教育委員会に報告させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。皆さん、お疲れさまでございました。以上で小学校の 13 種目の審議が終了いたしました。予定より 1 時間ほど延ばして申し訳ございません。本当にありがとうございました。この後は事務局の方にお願いしたいと思います。

3. 閉会

(事務局) 委員の皆さま、2 日間にわたりまして答申に向けてご審議いただきまして、本当にありがとうございました。ただ今、委員長からお話をありましたが、今後、ご審議いただいた内容を基に答申をまとめさせていただきまして、委員長、副委員長には選定委員会を代表しまして教育委員会の採択に係る答申をお願いしたいと思っております。なお、本日までの資料等は会の性格上、全て回収させていただきますので、机の上に全て置いてお帰りいただくことになります。また本日お持ちいただかなかつたものにつきましては後日事務局が回収に参りますので、よろしくお願ひします。また事務局の方から連絡させていただきます。

なお、選定委員長、副委員長におかれましては、後日教育委員会議にご出席いただきますので、必要な資料もあるかと思います。この会が終わりましたら事務局と簡単な打ち合わせをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは最後に、金沢市教育委員会、野口教育長が閉会のご挨拶を申し上げます。

(教育長) 2 日間にわたりまして、選定委員長、副委員長、また各委員におかれましては、大変ご多用の中、ご出席を賜りまして、本市の小学校の子どもたちにふさわしい、そして令和 6 年度から使用する小学校の教科書につきまして、しっかりとご審議いただきまして、心から感謝申し上げたいと存じます。

2 日間にわたりまして、それぞれの教科につきまして、この選定委員会からご推薦いただく教科書がこれで決まったのかなと思っておりますが、われわれ教育委員の立場からいたしますと、もちろん委員長の方からは「この教科書はどうでしょうか」とご推薦いただきますけれども、全ての教科書について、まずは教育委員の方で話をさせていただきたいと思っています。その上で、委員長からの報告や答申を踏まえながら、ゆっくりと審議をさせていただき、決定させていただきたいと思っております。

でも、教科書が決まても大事だなと僕が思っていることが 2 点あります。1 点は何かといいますと、やはり先生方の授業づくり、主体的・対話的で深い学びをつくり上げていく授業づくりということと、もう一つ大事だなと思っておりますのは、教師の授業力の向上、これに尽きるのだろうと思っています。

今後ともたくさんのご指導、またはご協力を賜りたいと思っております。本当に 2 日間、暑い中、ありがとうございました。2 日間のご審議に対しまして心から御礼申し上げまし

て、最後の話とさせていただきます。ありがとうございました。

(事務局) 以上をもちまして、第3回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を終了いたします。お気を付けてお帰りください。ありがとうございました。